

(1) 『棚田を泳ぐ&まちなか鯉のぼりまつり』および関連事業

福島 二郎・事務局

1. 『鯉のぼりまつり』創設経緯と開催目的

『那須烏山市まちづくり研究会』（以降、『まち研』と略記。）は、2006年7月14日に開催された「(仮称) 那須烏山市まちづくり研究会」全体会議において、出席した大学教員・那須烏山市・烏山商工会（2008年4月に現在の那須烏山商工会に改編）等の承認により正式に発足した。この全体会議開催に向けた準備会として同年5月24日に行われた「那須烏山市の活性化に関する委員会等設立検討会」において、足利工業大学福島研究室（以降、当研究室と略記。）は『まち研』の活動主旨の提案とともに当研究室の研究活動の方向性について報告しており、その中で『鯉のぼりまつり』をイメージした取組みについて提案している（『那須烏山市(烏山地区)まちづくり企画案』(2006.5.24)）。この報告の中で、まちおこし（地域おこし）イベントへの取組みとして6項目挙げ、そのうち、①棚田と烏山和紙を活用したイベントを立ち上げる、④花の棚田を泳ぐ50匹の鯉のぼり（烏山和紙製鯉のぼり）、の企画を謳っている。提案当時、この企画立案は確固たる実現性に立脚した提案とは必ずしも言えないものであったが、当研究室の2006年度の卒業研究として実施した①当市の地域資源の抽出と活用手法、②CGを活用した景観整備の計画立案について（『Ⅱ. 2. 3 研究&活動等の成果一覧（6）卒業研究』参照。）の検討結果を基に、研究会事務局と数次にわたり打合せを重ねることにより、『鯉のぼりまつり』が実現することになった。

2006年度の卒業研究として実施した当市の地域資源の抽出と活用手法の検討では、当市の地域資源の一つに『国見の棚田』と『烏山和紙』を抽出し、その活用手法として両資源の持つ“良さ”と“特徴”を最大限に生かすことの検討の帰結が“棚田を泳ぐ和紙で製作した鯉のぼり”の景観であった。言うまでもなく、『国見の棚田』はその景観が最大の魅力であり、多くの人達が心に思い描くふるさとの原風景でもある。また、『烏山和紙』は季節の風物詩・年中行事として定着している“鯉のぼり”を地元の伝統工芸・技術で再生することをおして、そのさらなる付加価値の蓄積を意図したものである。

このイメージを視覚的に捉えるためCG画像の作成をおこなった。作成したCG画像の構成要素は、『国見の棚田』と『烏山和紙製（と仮定した）鯉のぼり』、および鯉のぼりの季節を想定して植栽した（と仮定した）『紫陽花』の三者の合成画像である（p180 資料2 参照）。この画像イメージを描くことの契機となったのは、国見集落の地元自治会とおこなった棚田周辺の清掃活動を踏まえた花による景観形成への取組みである（後述の『Ⅲ. 1. (4) その他』参照）。この景観整備は、『まち研』事業の一つとして現在も継続して行われている。

『鯉のぼりまつり』を創設するにあたり、イベント名は『棚田を泳ぐ鯉のぼりまつり』とした。これは、当市が有する地域資源を多分に意識した上での内外向け発信であるが、その開催目的は必ずしも明確化してはいなかったと思う。しかしながら、基本理念として以下の二点は共有していたと思われる。一つは市民に対する地域への愛着心の醸成を目的とした地域資源の再確認と再評価であり、もう一点は市が有する地域資源活用による来訪者への啓発である。

現在、この『鯉のぼりまつり』の開催目的は、2014年度の開催を議題とした『まち研』委員会(2014年3月18日)において、以下の3項目に収斂し明記することが確認されている。

- ①地域資源の再認識・再評価を図る。
- ②市民の交流の場を提供する。
- ③市への来訪者の増加に向けたPRを実施する。

以下に、『鯉のぼりまつり』開催までの経緯に関する資料を示す。

《資料1》 2006年5月24日に報告した「那須烏山市(烏山地区)まちづくり《企画案》」の全文(①～③)

《資料2》 『棚田を泳ぐ鯉のぼり』と『花の植栽』イメージCGの作成例

那須烏山市(烏山地区)まちづくり《企画案》(2006.5.24)

足利工業大学 福島二郎

1. まちづくり計画と活動の拠点となる「まちづくり研究会(名称:)」の開設
 - (1) 商工会・行政・地域住民・大学で構成し運営する。
 - (2) 「まちづくり研究会」の活動施設……商店街の空き店舗を活用
 - (3) 「まちづくり研究会」の役割・活動
 - ① グランドデザインの設定
 - ② 個々の具体案と年間計画の設定
 - ③ 必要に応じてグループ(部会)の設置と運営、およびグループ(部会)活動の調整
2. 福島研究室の活動方針
 - (1) 「まちづくり研究会」への参画
 - (2) まちづくり(地域づくり)の検討
 - ① 「団塊世代の定年」・「田舎暮らしブーム」の受け皿の可能性の検討と具体化
 - ② 空き店舗・空き家の活用方策
 - ③ 「住み続けたいまち」・「再訪したいまち」の魅力づくり
 - ④ 地域の個性の創出(他都市との差別化)
 - (3) まちおこし(地域おこし)の検討
 - ① 具体案(イベント)の検討
 - ② イベントの恒例化(定着化)
 - ③ 情報発信・PR手法
3. 具体的な活動内容
 - (1) 地域資源の調査(全般調査)
 - ① 有形……史跡・文化財・町並み・風土(自然)・土木遺産・その他遺産・歴史的建造物・地域のブランド(食材等)・伝統工芸・伝統産業・その他
 - ② 無形……文化財・歴史・伝説・物語・その他
 - (2) 景観形成への取組み(景観形成地区の設定とガイドラインづくり)
 - ① 中央通りの町並み景観(修景とガイドライン)
 - ② 観光拠点地区・路地の景観形成(地元産素材の利用とガイドライン)
 - ③ 国見の棚田(保全とガイドライン)
 - ④ 国見の棚田(休耕田を利用した景観形成)

*CGによる検討モデルの作成
 - (3) 観光スポットの創造・再生とマップづくり(地域資源の再評価と活用)
 - ① 「地域の歴史や文化を学ぶ」・「交流体験する」・「自然との触れ合い」・「健康増進」指向の観光への対応
 - ② 具体的なスポットの検討

- ③戦争遺産の新たな評価と活用(“平和の語り部”としての位置づけ)
- ④近代化遺産・伝統工芸の活用方策の検討
- ⑤国見の棚田とサンライズ国見の活用
- ⑥那珂川の歴史を踏まえた活用
- (4)観光客の誘導・導線の検討(拠点とルートの検討)
 - ①拠点(モータープール機能)設置とその位置決め
……「道の駅」の可能性、またはそれに代わるもの
 - ②モータープールを基軸とした回遊ルートの設定
……歩行ルート・自転車ルート
 - ③マップの作成
- (5)まちおこし(地域おこし)イベントへの取組み
 - ①棚田と烏山和紙を活用したイベントを立ち上げる。
 - ②そのための準備として「国見の棚田の四季(仮称)」のホームページを立ち上げ、棚田のイメージの浸透を図る(1週間を目途に更新)。
 - ③イベント1.棚田・花フェスタ(休耕田を季節の花で埋めつくす)
 - ④イベント2.花の棚田を泳ぐ50匹の鯉のぼり(烏山和紙製鯉のぼり)
 - ⑤イベント3.花の棚田に舞う凧(烏山和紙製凧)
 - ⑥イベント4.画家が描く里山の輝き
 - *CGによる検討モデルの作成(③④⑤)
- (6)「まちづくり研究会」の活動案(必要に応じてグループを立ち上げる)
 - ①地域の歴史と物語性の研究
例えば、「那珂川舟運と烏山和紙」・「烏山和紙の今昔ー広がる和紙の世界」等
……住民同士・住民と行政および学生(他者)の交流ネットワークづくり
……地域に対する誇り・愛護の心の醸成
……観光ガイドボランティアの育成も視野に入れる
 - ②地域農産物の加工品製造の研究
例えば、「かぼちゃ」を使ったデザート・「生産果樹等の新規商品化」・「洋菓子・ジェラート」等
……食アメニティコンテスト(農水省主管)への参加、または商工会独自のコンテストの開催
……入賞作品の活用(例えば“入賞メニュー”として旅館組合で一年間使う、等)
……特産果樹を使った新ワイン・新ジュースの開発
……起業も視野に入れる(商品化、コミュニティレストランなど)
 - ③「団塊世代の定年」・「田舎暮らしブーム」の受け皿の研究
移住者を呼び込むための環境整備の検討
……都心部の小学生と地元の小学生の交流の企画(親子で参加する企画案)

- …農業体験(農業就労・土に親しむきっかけづくり)
- …棚田オーナー制度、棚田トラスト制度、農業指導法の検討
- …移住者が蓄積してきた技術・知識の受け皿としての就労機会の検討

④空き店舗の活用研究

- カルチャースクール・移住者と地元住民の交流施設・福祉施設等の検討
- …烏山和紙の和紙人形・和紙鯉のぼり・和紙凧のカルチャースクール
- …起業も視野に入れる

⑤烏山の隠れた魅力を探す研究

- 新たな地域資源の掘り起こし、見過ごしていた魅力の再発見
- …総合学習を活用した“烏山まちなか子供ウオッチング”(子供たちにコンパクトカメラをもたせる)と作品のコンテスト
- …伝統的家屋・地元産素材を使った構造物の探訪

⑥情報収集と情報発信の研究

- …観光客が求めている情報収集と地域住民が必要と考える情報の整理
- …他都市の取組みの成功例と失敗例
- …情報発信手法の研究

4. 早急に取り組む内容とそれに伴うお願い

- 3 (5) ②「国見の棚田の四季(仮称)」のホームページの立ち上げ
 - ・市のホームページへのリンク
 - ・棚田地権者への撮影許可
- 3 (5) ③イベント1棚田・花フェスタ(休耕田を季節の花で埋めつくす)
 - ・休耕田の借用・使用許可
- 3 (1) 地域資源の調査(全般調査)
 - ・宿泊施設のご提供
- 1 (2)「まちづくり研究会」の開設
 - ・研究会の立ち上げ(メンバーの呼びかけ)
 - ・活動施設としての空き店舗のご提供

《資料 2》 『棚田を泳ぐ鯉のぼり』と『花の植栽』イメージCGの作成例



棚田と紫陽花と鯉のぼり



棚田と彼岸花と鯉のぼり

2. これまで開催された『鯉のぼりまつり』の概要

(1) 第1回(2007年度)

2006年度における『まち研』の活動成果と決定事項を踏まえ、2年目を迎えた2007年に『第1回棚田を泳ぐ鯉のぼりまつり』が開催された。5月1日から5月31日の1ヵ月間を事業の期間とし、会場となる『国見の棚田』エリアに150匹の鯉のぼりが設置された。150匹の内100匹は市民への呼び掛けにより寄贈して頂いた鯉のぼりであり、50匹は市内児童と当研究室の学生が烏山和紙会館館長の福田弘平氏の指導を受けながら“烏山和紙”を使用して製作した鯉のぼりである。なお、市民からの鯉のぼり寄贈数は研究会事務局の呼び掛けから間もない同年4月上旬に270匹を超えるなど、大きな反響があった。この間における事業の展開および事情については、下野新聞でも大きく報道されている(p36資料7参照)。

このような経緯を踏まえて、『第1回棚田を泳ぐ鯉のぼりまつり』が開催されたが、初めてとなる祭りの開催を市内外へアピールすべく、5月5日のこどもの日に合わせてオープニングセレモニーが開催されている。オープニングセレモニーは、国見第2駐車場を会場として、市内外から参加された約100名の来場者で賑わった。地域資源の情報発信とともに、都市と農村および世代を超えた交流機会の創出をも念頭においたイベントに、足利工業大学附属高等学校および足利短期大学附属高等学校の両校吹奏楽部による合同野外演奏会が華を添え、心地良い音楽と風景に山里が煌めいた。

この『棚田を泳ぐ鯉のぼりまつり』は、大学(当研究室)＋市民(児童・和紙関係者)＋地元自治会＋行政(市商工観光課・市農政課)＋烏山商工会の連携により実現したものである。以下に、第1回開催に関する資料を示す。

《資料3》 烏山和紙で鯉のぼりを製作する市内児童と足利工業大学学生達

《資料4》 国見の棚田に設置された鯉のぼり

《資料5》 足利工業大学・足利短期大学吹奏楽部による合同演奏会

《資料3》 烏山和紙で鯉のぼりを製作する市内児童と足利工業大学学生達



福田弘平氏(烏山和紙会館館長)の指導を受けながら製作に励む子供達

《資料4》 国見の棚田に設置された鯉のぼり



《資料5》 足利工業大学・足利短期大学吹奏楽部による合同演奏会



(2) 第2回(2008年度)

第2回目となる『鯉のぼりまつり』は、2008年に開催された。第1回開催の祭りに対する反響の大きさとともにいくつかの提案がなされ、開催場所は“国見の棚田エリア”と“まちなかエリア”の2ヵ所での開催となった。“国見の棚田エリア”は『棚田を泳ぐ鯉のぼりまつり』として、当該事業開催趣旨の基軸となる“国見の棚田の魅力発信”と“都市と農村の交流”の継続、また、“まちなかエリア”はその名の示すとおり当市の“まちなか”にも賑わいの場を創出しようとの狙いである。『まちなか鯉のぼりまつり』の会場は、当市中心市街地内に位置する『清水川せせらぎ公園Cゾーン』にて、外部からのアクセスの利便性も加味されている。オープニングセレモニーは市外からの来訪者への便宜を優先し『清水川せせらぎ公園Cゾーン』を会場に4月27日に開催された。セレモニーでは、第1回と同様に足利工業大学・足利短期大学の吹奏楽部による合同演奏会が行われ、約90名の来場者で賑わいを見せた。“国見の棚田エリア”では同日にイベントとして農産物や綿菓子の販売等が実施され、約40名が温み始めた棚田の上を舞う鯉のぼりの会場を訪れた。2006年度から『まち研』が実施している『フォトコンテスト』(後述のⅢ-1(4)参照)への参加呼び掛けも奉功したと思われる。

以下に、第2回開催に関する資料を示す。

《資料6》 第2回の開催を知らせるポスター

《資料7》 イベントでの演奏会の様子を報じる下野新聞(2008年5月1日)

《資料8》 祭り会場の様子

《資料6》 『第2回棚田を泳ぐ鯉のぼりまつり』のポスター

『第2回棚田を泳ぐ鯉のぼりまつり』のご案内

風光る、からすやまの大きな地域資源「国見の棚田」と「鳥山和紙」のコラボレーション。今年も、地元児童が制作した「和紙の鯉のぼり」と、市民の皆さまから寄贈して頂いた鯉のぼりを活用して、『棚田を泳ぐ鯉のぼりまつり』を開催いたします。からすやまの新たな風物詩。楽しいひと時をお過ごしください。

◇期間 平成20年4月初旬～5月末日

◇場所 国見地内(那須烏山市小本須地内)

◇期間中のイベント案内

1 オープニングセレモニー

- 期日 4月27日(日) 11時30分
- 会場 清水川せせらぎ公園
- 内容 ①野外演奏会

あの興奮をもう一度! 足利工業大学附属高等学校吹奏楽部による演奏会を開催いたします。総勢50名による演奏会をお楽しみください

②無料体験所(園芸体験)

③おたきり販売

2 体験イベント

- 期日 5月5日(祝日)・25日(日) 両日とも11時～
- 会場 国見第2駐車場(わらび荘入口手前駐車場)
- 内容 手書き&和紙の鯉のぼり制作

鳥山和紙宗家の稲田弘平館長にご指導していただきます。親子でござください。

◇主催 那須烏山市まちづくり研究会
■問い合わせ 沼津環境計画工務院 電話 0287-83-1115



春に乗ってスイスイ

気持ちよさそうに泳ぐこいのぼりをバックに野外演奏する高校生

那須烏山・まちづくり研
まちなかこいのぼり祭り

高校生ら演奏で応援

【那須烏山】国見地に市街地から盛り上げようで行った。区の棚田で四日に行われるまつりをPRしようと、市、商工会と県内の大学で組織する「市まちづくり研究会」はこのほど、清水川せせらぎ公園で、約百五十匹のこいのぼりを泳がせる「まちなか鯉のぼりまつり」を行った。

同地区の棚田のPRなどを行う足利工業大・福島二朗准教授研究室が企画した「棚田を泳ぐ鯉のぼりまつり」の一環。

同公園は市街地であり、四日のまつりを前に、四日のまつりを前に市街地から盛り上げようで行った。オープニングイベントとして、足利工業大付高、足利短大付高のプラスチック部が野外演奏を行ったほか、烏山和紙を使ったこいのぼり製作の親子体験も実施。親子連れなど約五百人が楽しんだ。

四日のまつりは午前十時から。烏山和紙で製作したこいのぼりを約百匹を設置している。設置は六日まで。

問い合わせは市商工観光課 ☎0287・833・1115へ。

<資料 8> 祭り会場の様子



(3) 第3回(2009年度)

『鯉のぼりまつり』は、季節の移ろいを知らせる当市の風物詩となり、5月のゴールデンウィークを挟んで概ね1か月間開催される行事として定着した。第3回目となる2009年は、前回と同様に“国見の棚田エリア”と“まちなかエリア”の2箇所を会場として開催された。

オープニングセレモニーは“まちなかエリア”の『清水川せせらぎ公園 Cゾーン』で5月2日に開催され、約100名の来場者で賑わった。セレモニーでは、市民グループ“あんだんで”によるオカリナの演奏会が開催されるとともに、さらに『まち研』を構成する国際医療福祉大学のダンス部が駆けつけ、若い学生たちのエネルギッシュでリズムカルな踊りが新風を吹き込んだ。また、『清水川せせらぎ公園 Cゾーン』には、“ミニ鯉のぼり”300匹が設置されるとともに、来場した子供達にプレゼントされた。

この第3回の開催は、これまで研究会事務局と足利工業大学による企画・運営体制から、『まち研』を構成する複数の大学および市民グループの協働による『まちづくり研究会事業』として、その体制が強化拡充された記念となる開催となった。

以下に、第3回開催に関する資料を示す。

《資料9》 第3回開催のポスター

《資料10》 市民グループ“あんだんで”、国際医療福祉大学によるセレモニーイベント

《資料11》 祭り会場の様子

《資料9》 第3回開催のポスター

『鯉のぼりまつり』のご案内

風光る。からすやまの大きな地域資源『国見の棚田』と『烏山和紙』のコラボレーション。今年も、地元児童が制作した“和紙の鯉のぼり”と、市民の皆さまから寄贈して頂いた鯉のぼりを活用して、『第3回鯉のぼりまつり』を開催します。那須烏山の新たな風物詩。楽しいひと時をお過ごしください。
『ちびっこ集まれ！ 素敵なプレゼントあるよ(先着100名)』

◇期間 平成21年4月12日(日)～5月6日(水)

◇場所 国見地内・清水川せせらぎ公園
(那須烏山警察署北側)

◇期間中のイベント案内

1 オープニングセレモニー

- ・期日 5月2日(土)10時～15時
(雨天時中止)
- ・会場 清水川せせらぎ公園
- ・内容 ①野外演奏会
②和紙の鯉のぼり制作体験(参加費 500円)
③物産展示即売所
④無料休憩所・綿菓子(子ども無料-先着100名)

※まちづくりワークショップグループによるジオラマの展示

- ・ジオラマについてアンケートに答えていただいた方に粗品進呈。さらに抽選で景品を進呈いたします。

◇主催 那須烏山市まちづくり研究会 委員長大久保忠且(宇都宮共和大学副学長)
■問合せ 那須烏山市商工観光課商工係 ☎ 0287-83-1115



《資料 10》 セレモニーイベントの様子



《資料 11》 祭り会場の様子



(4) 第4回(2010年度)

第4回目の開催となる今回、前年に倣い“国見の棚田エリア”と“まちなかエリア”の2箇所を会場として開催された。“まちなかエリア”の会場となる『清水川せせらぎ公園Cゾーン』には“ミニ鯉のぼり”252匹とともに、“鮎のぼり”15匹が設置された。この“鮎のぼり”は、当市内を貫流する那珂川の清らかさを物語る象徴としての幟であり、地域資源の表出を謳う当該事業にマッチした企画となった。また、“国見の棚田エリア”には烏山和紙で製作した鯉のぼり33匹が設置された。この烏山和紙による鯉のぼりの製作は、当市で活動している『特定非営利活動法人野うさぎくらぶ』の協力により、市内学童クラブの児童達(5学童クラブ・合計260名)と足利工業大学の学生により製作されたものである。

オープニングセレモニーは『清水川せせらぎ公園Cゾーン』において5月1日に開催された。イベントでは、足利工業大学および足利短期大学吹奏楽部、国際医療福祉大学ダンス部、また、市民グループ“あんだんて”が参加し、来場者は800名を数える盛況ぶりであった。

以下に、第4回開催に関する資料を示す。

《資料12》 第4回開催のポスター

《資料13》 祭り会場の様子

《資料12》 第4回開催のポスター



《資料 13》 祭り会場の様子



(5) 第5回(2012年度)

『まちづくり研究会事業』として『鯉のぼりまつり』は毎年継続して開催されてきたが、2011年3月11日に発生した東日本大震災への対応から、2011年度は開催を見送った。ただし、例年開催会場として使用してきた『清水川せせらぎ公園』および『南那須庁舎市民公園』に、鎮魂と復興を祈念して“ミニ鯉のぼり”“鮎のぼり”および“がんばろう日本のぼり”が設置された。

第5回『鯉のぼりまつり』は未曾有の大震災の翌年となる2012に開催された。大震災からの復興を念頭においた2年ぶりとなる開催である。会場は恒例化した“国見の棚田エリア”と“まちなかエリア”の2箇所である。本開催に際し、地元のNPO法人野うさぎくらぶの協力を得て、地元の伝統工芸品である烏山和紙に触れることを目的に、地元の学童クラブと当研究室による烏山和紙を活用した鯉のぼり製作体験を実施した。烏山和紙会館の福田弘平館長から烏山和紙の歴史について説明を受けた後、温かみのある烏山和紙を千切り、子供たちが描く思い思いの鯉のぼりが製作された。

オープニングセレモニーは4月28日に『清水川せせらぎ公園 Cゾーン』で開催された。イベントには、地元の栃木県立烏山高等学校吹奏楽部が初めて参加するとともに、国際医療福祉大学ダンス部も応援に駆け付けた。当セレモニーには、市内外から約500名の来訪者があった。以下に、第5回の開催に関する資料を示す。

《資料14》 第5回開催のポスター

《資料15》 烏山和紙による鯉のぼり制作風景

《資料16》 オープニングセレモニーと祭り会場の様子

《資料14》 第5回開催のポスター

鯉のぼりまつり
のご案内

期間 平成24年4月15日(日)~5月6日(日)
場所 国見地内・清水川せせらぎ公園(那須烏山警察署北側)

風光る、からすやまの夫きな産城資源
「国見の棚田」と「烏山和紙」のコラボレ
ーション。今年も、地元児童が製作した「和紙
の鯉のぼり」と、市民の皆さまから寄贈して
頂いた鯉のぼりを活用して、「第5回鯉のぼ
りまつり」を開催中です。那須烏山の新たな
風物詩、楽しいひと時をお過ごしください。

期間中のイベント案内
オープニングセレモニー
期日 4月28日(土)
10時~15時(雨天時中止)
会場 清水川せせらぎ公園

内容
①野がりパフォーマンス
栃木県立烏山高等学校(吹奏楽) 10:45~
チャリンコ競技選手(吹奏楽) 11:45~
那須烏山市消費者リーダークラス(OXタイズ) 13:00~
ほか
②農産物・パンの直売
③綿菓子(こども無料)
④フリーマーケット

※駐車場は、J/A女子青森山笠店・山笠げ会館、烏山公園をご利用下さい。

主催 那須烏山市まちづくり研究会 (委員長 大久保忠旦 宇都宮共和大学副学長)
協賛 那須烏山市商工観光課 ☎0287-83-1115

《資料 15》 烏山和紙による鯉のぼり制作風景



鯉のぼりを製作する地元学童クラブと足利工業大学学生

《資料 16》 オープニングセレモニーと祭り会場の様子



栃木県立烏山高等学校吹奏楽部による演奏会



祭り会場の様子

(6) 第6回(2013年度)

当市の地域資源の表出とその活用により地域交流を創出することを主たる目的として開催してきた『鯉のぼりまつり』は、多くの市民に待ち望まれるイベントとして定着してきた。第6回目となる2013年度は、恒例化した“国見の棚田エリア”と“まちなかエリア”の2箇所での開催に変更はなかったが、“まちなかエリア”の鯉のぼりの設置ゾーンをこれまでの『清水川せせらぎ公園Cゾーン』から『同公園Bゾーン』に移動させることになった。これは、ドクターヘリのランデブーポイントに指定されている同公園の緊急時におけるCゾーン確保の観点からの対応であった。ただし、オープニングセレモニーについてはこれまでどおりCゾーンを利用した。また、“国見の棚田エリア”は従来どおりの開催である。

当祭りの眼目である“烏山和紙で作った鯉のぼり”は、NPO法人野うさぎくらぶの協力により地元学童クラブの子供達と足利工業大学学生により製作された。当日は、烏山和紙会館の福田博子氏に製作指導をお願いした。

子供たちが作った烏山和紙製鯉のぼりが晴天のそよ風に泳ぐ中、オープニングセレモニーが5月3日に開催され、市内外から約450名の来場者で賑わった。地元の烏山高等学校吹奏楽部の爽やかな演奏がこだまする中、『まち研』を構成する大学・市民グループおよび市内外で活動する物販グループも加わり、地域交流を楽しみ深める時間を持つことができた。

以下に、第6回開催に関する資料を示す。

《資料17》 第6回開催のポスター

《資料18》 烏山和紙による鯉のぼり制作風景

《資料19》 オープニングセレモニーと祭り会場の様子

《資料17》 第6回開催のポスター



《資料 18》 烏山和紙による鯉のぼり制作風景



《資料 19》 オープニングセレモニーと祭り会場の様子



(7) 第7回 (2014年度)

2014年3月18日の『平成25年度まちづくり研究会第4回委員会』において、第7回『鯉のぼりまつり』の鯉のぼりイベントは、当市の大きな集客イベントとして開催されている『そばまつり』との共催により開催されることとなった。烏山和紙で製作した鯉のぼり、市民から寄贈して頂いた鯉のぼりの設置については、これまでどおり“国見の棚田エリア”と“まちなかエリア”の2箇所で開催し、4月26日から5月18日までの間“ミニ鯉のぼり”および“鮎のぼり”の設置も例年に倣い行われた。

鯉のぼりイベントは5月17・18日の両日、当市北部に位置する『大桶運動公園』において『第4回八溝そば街道そばまつり』と同時開催された。会場では、『そばまつり』セレモニーに引き続き大久保忠旦委員長が挨拶するとともに、足利工業大学全学応援団によるリーダー公開、国際医療福祉大学ダンス部のパフォーマンス等が披露された。また、会場内に設置された『まち研』テントでは、第2回以降継続して実施してきた“和紙鯉のぼり製作体験”に、約130組の親子の参加があった。また、自作の紙芝居でまちづくり活動に係わる内田美季子氏による紙芝居も披露され、約70名の親子連れが熱心に耳を傾けた。

以下に、第7回開催に関する資料を示す。

《資料20》 第7回開催のポスター

《資料21》 オープニングセレモニーと祭り会場の様子

《資料20》 第7回開催のポスター

第7回 鯉のぼりまつり

期間 平成26年4月26日(土)～5月18日(日)

場所 小木須地内 国見の棚田・清水川せせらぎ公園

那須烏山市の誇る地域資源「国見の棚田」と「烏山和紙」のコラボレーション! 風光る5月の那須烏山市の新たな風物詩。
「鯉のぼりまつり」で、楽しいひと時をお過ごしください。

■ 棚田を泳ぐ鯉のぼり 小木須地内 国見の棚田
国の「日本の棚田100選」に認定されている国見の棚田に、市民のみならずから寄贈いただいた鯉のぼり約80匹が泳ぎます。

■ まちなか鯉のぼり 清水川せせらぎ公園
清水川せせらぎ公園にミニ鯉のぼり、鮎のぼりが泳ぎます。

期間中のイベント

「第4回八溝そば街道そばまつり」会場内で、鯉のぼりイベントを開催します! ちびっこ集まれ!

期日 5月17日(土)・18日(日)
10時～15時

会場 大桶運動公園
「第4回八溝そば街道そばまつり」会場内

内容

- ◆ 和紙鯉のぼり製作体験
烏山和紙で、自分だけのオリジナル鯉のぼりを作ろう!
参加無料(一日先着80名)
- ◆ パフォーマンス
そばまつりのステージで、研究会参加大学生等によるパフォーマンスを行います。

出演者

【5月17日(土)】
10時15分～ ザ・マーケット(ライブ)
13時30分～ 足利工業大学全学応援団(パフォーマンス)

【5月18日(日)】
11時～ 内田美季子さん
(紙芝居: 人材育成の天才江戸のイクメン(二高金次郎))
※ 紙芝居は、そばまつり会場内「まちづくり研究会テント」で行います。
13時30分～ 国際医療福祉大学ダンス部(パフォーマンス)

主催 那須烏山市まちづくり研究会 問い合わせ 那須烏山市商工観光課 ☎0287-83-1115

《資料 21》 オープニングセレモニーと祭り会場の様子



(2) 『近代化遺産全国一斉公開 in なすからすやま』事業について

福島 二郎・事務局

1. 『近代化遺産全国一斉公開 in なすからすやま』創設経緯と開催目的

2006年7月14日に開催された「(仮称)那須烏山市まちづくり研究会」全体会議において、『那須烏山市まちづくり研究会』(以降、『まち研』と略記。)が発足した。発足して間もない同年8月30日、『まち研』を構成する大学・行政・商工会による第1回委員会が開催され、各大学等の研究活動の方針および当該年度における活動計画等について報告および意見交換が行われた。この委員会において、足利工業大学福島研究室(以降、『当研究室』と略記。)は『「那須烏山市まちづくり研究会」活動報告と今後の予定(2006.8.30)』と題した活動企画書を提出し、当研究室の研究活動のテーマの明示とともに当面の活動予定について説明している。そして、この活動企画書の中で、2006年度の活動予定として『近代化遺産全国一斉公開事業への参加』を詠っている。この『近代化遺産全国一斉公開事業への参加』は、『まち研』発足に先立つ5月18・24日、6月7・21・27日、および発足して間もない8月8-9日、8月23-24日、8月27-29日に実施した那須烏山市の地域資源調査の成果を踏まえ、後に研究会事務局となる市商工観光課との数次にわたる検討を経て、企画・開催することを前提に準備していたものである。

これらの事前調査では、当市の地域資源として“国見の棚田”や“烏山和紙”とともに、“近代化遺産”として14件リストアップし、当市の歴史を物語る新たな文化遺産として位置づけが行われた。特に旧烏山町エリアには、近世の面影を色濃く残す町家や蔵が建ち並ぶ閑静な町並みの中に、近代の芳香を漂わせながら風景に溶け込む毅然とした存在を確認することができた。

近代化遺産とは、本邦における幕末から明治・大正・昭和戦前期にかけて、欧米など先進諸国からの新しい技術や文化・制度等の移入により建造された産業・交通・土木・軍事・教育・文化施設など、所謂わが国の近代化に貢献してきた構造物および建築物の総称である。これら近代化遺産は、現在われわれが営む生活やその文化の直接のバックグラウンドとなるものである。しかしながら、これまで当市においては、近代化遺産という概念およびその持つ文化財としての認識について、十分な理解は得られていなかったと思われる。そもそも、“近代化遺産”という語彙は1990年の文化庁による造語であり、当時において未だ社会に流布するには至ってはいなかったからである。因みに、この近代化遺産の保護と活用を目途とした『全国近代化遺産活用連絡協議会』が発足したのが1997年であり、その目玉事業として現在も継続して開催されている『近代化遺産全国一斉公開』が初めて企画・開催されたのが2005年である。当市に限らず、近代化遺産の認知の度合いは未だ低いものであった。

『まち研』発足後、『まち研』事業として初めての大掛かりなイベント『近代化遺産全国一斉公開』への参加は、こうした状況の中で行われた。当該事業の開催趣旨は、合併間もない新市のまちづくりの意義・方向性として、二つの目的を念頭においていた。一つは、地域資源の発掘・公表を踏まえた共有資産としての市民融和であり、もう一つは、その共有する地域資源を活用した地域の魅力情報発信による新市の知名度アップである。前述のとおり、近代化遺産は当時確固たる評価が確立されておらず、『全国近代化遺産活用連絡協議会』が立ち上げた『近代化遺産全国一

齊公開』事業も緒についたばかりであった。当該事業への当市の参加表明は、主催者である同協議会にとっても歓迎すべきことであったと思われる。『近代化遺産全国一斉公開 in なすからすやま』は、当市における新たな文化概念としての近代化遺産の浸透とその活用をとおして、新市のまちづくりを模索する一つの試みとして開催されることになったのである。

以下に、創設経緯に関する資料を示す。

《資料1》 『まち研』発足前後におこなった地域資源調査の様子

《資料2》 2006年8月30日に報告した『「那須烏山市まちづくり研究会」活動報告と今後の予定』の全文(①～②)

《資料1》『まち研』発足前後におこなった地域資源調査の様子



東京動力機械製造(株)地下工場跡(5月18日)



神長砲弾貯蔵坑(5月24日)



旧烏山町歴史的建造物調査(8月23日)



旧烏山町歴史的建造物調査(8月28日)

「那須烏山市まちづくり研究会」活動報告と今後の予定（2006. 8. 30）

足利工業大学福島研究室

1. テーマ：那須烏山市（旧烏山町地区）の歴史・自然を活かしたまちづくり
2. 大 要：旧烏山町の地域資源を活かしたまちづくりとして、歴史・伝統文化、自然環境を活かした地域づくり・景観づくりを目的に、主として以下のことを行なう。
 - ①市街地の歴史的建造物を活かした町並み保全と景観づくり
 - ②里山（国見地区）の自然環境を活かした地域づくり・景観づくり
3. ねらい：外に向けた“観光”と内に向けた“誇り”の醸成
4. 市街地の歴史的建造物を活かした町並み保全と景観づくり
 - (1) 歴史的建造物および土木遺産・近代化遺産の調査：8月23日（水）～25日（金）、8月27日（日）～30日（水）
 - ①市街地（特に R294 号周辺地域）の建造物調査…見世蔵・石蔵・土蔵および洋風建築物等、位置・築造年等の確認
→ 見世蔵・町家の特徴についての検討
 - ②近世～近代の土木遺産・近代化遺産調査…灌漑用水・橋梁・建造物・軍事等
→ 特に、耕便門について（近世に開削された灌漑水路の技術的評価と、近代以降の産業との関わりの検討）。
 - ③景観資源図の作成
 - (2) 近代化遺産全国一斉公開事業への参加：10月20日（金）～22日（日）
 - ①全国近代化遺産活用連絡協議会・日本ナショナルトラスト主催事業
 - ②市として3件（旧東京動力機械製造株式会社地下工場跡、旧烏山病院、旧国鉄烏山駅舎）公開事業として参加。洞窟酒蔵は企画事業として10月22日（日）にイベントを行なう。
…全国に向けた情報発信であり、恒例化していく。
 - (3) ホームページの制作（予定）
 - ①（仮称）「からすやま風光」アンソロジー～歴史と文化空間・時の記憶を紡いで～
 - ②既にUPしている自然環境としての「国見の棚田」シンフォニー～里山彩景・いつか聞いた風の調べ～と同様に、歴史・文化環境としての建造物や町並みを対象として、現在から過去への回帰を写真と散文で紹介する（前記調査の成果を踏まえて）。
 - (4) 烏山通運の石造倉庫の活用の検討
 - (5) 町並み景観に関する市民討論会の開催：11月上旬～中旬を予定
 - ①R294号沿いの景観CG（2D）を基に、市民のみなさんと討論会・ディスカッションを行なう。
 - ②前記調査を踏まえて、CG資料10種類程度作成。各CG内容の解説文の作成。

- ③市民のみなさんの意見の集約、提案の聴取。
- ④合意・提案を基に、3D化の検討。
- (6) 景観ガイドライン（簡単なルール）づくりの検討 → 本年度は①のみ。実質的には来年度以降を予定。
 - ①先進事例の収集と整理
 - ②景観形成の簡単なルールづくりのための研究会の立ち上げの検討
 - ③市民のみなさんへの先進事例の紹介（パネル展示）
 - ④市民・行政・商工会とのディスカッション・意見交換
 - ⑤ルールづくりの検討

5. 里山（国見地区）の自然環境を活かした地域づくり・景観づくり

(1) 「国見の棚田」の活用

- ①ホームページ「国見の棚田」シンフォニー～里山彩景・いつか聞いた風の調べ～を6月にUP。ほぼ2週間を目途に更新中。旧烏山町の大きな資源として、国見地区の棚田を中心とした里山景観の四季の移ろいを全国に発信。
- ②景観づくりとして、休耕田・休耕畑を研究室が借用し、花の植栽を行なっている。
 - ・コスモス（休耕畑：7月15日植栽）、紫陽花（休耕田：8月29日植栽）、彼岸花（棚田の畦：日程検討中）
- ③春および秋にイベントを開催する（都市と農村との交流）。
 - ・本年秋のイベント…「からすやま残したい風景フォト・コンテスト」の開催
 - ・コスモスの満開時に開催日を設定：10月15日（日）
 - ・国見地区のコスモス畑にて昼食会・地元物産の販売・長峰ビジターセンターにて写真コンテストを行なう（恒例化する。次年度は彼岸花も満開になることの予告）。
 - ・来春のイベントの計画（お願い）
棚田+紫陽花+鯉のぼりの景観…鯉のぼりは烏山和紙を用いて地元で制作 → 伝統芸能「山あげ祭り」を支え継承されてきた技術（図案等）を伝統工芸品・烏山和紙による新しい工芸品鯉のぼりの制作に活かす。

(2) 国見地区の地域づくり

- ①当面、美の里づくりコンクール（農水省）、下野ふるさと大賞（下野新聞社）の入賞を目指す。
- ②「（仮称）那須烏山市・国見地区ふるさと未来塾」立ち上げの検討

以上

*福島研究室 2006年度卒業研究生（7名）

佐野桂太・清水文一・須藤顕太郎・高橋政博・土屋憂季・萩原康成・星野雄彦
大学院都市環境工学専攻2年 堀口恭兵

2. これまでに開催された『近代化遺産全国一斉公開 in なすからすやま』の概要

(1) 第1回(2006年度)

『まち研』が主催する初めての大きな事業として、『近代化遺産全国一斉公開 in なすからすやま』が10月20日から22日の3日間にわたり開催された。前述したとおり、この事業は『全国近代化遺産活用連絡協議会』が主催し、文化庁や(財)日本ナショナルトラストが支援する一大イベントであり、わが国の近代化に貢献してきたモニュメント・近代化遺産を有する自治体への参加を呼びかけ開催されている事業である。この事業は2005年度に初めて開催され、第2回大会となる2006年度に当市は参加表明を行った。

この事業は、“公開事業”と“企画事業”の2つで構成されるが、2006年度は当市に現存する遺産の評価に関わる調査を進めながら、その成果を整理しつつ公開事業のみへの参加となった。公開する施設は、特に地域の固有性を表出している『東京動力機械製造(株)地下工場跡』『旧烏山病院』『旧国鉄烏山駅舎』の3施設である。因みに、全国では345件が公開され、栃木県からは4市17件が公開された。また、『東京動力機械製造(株)地下工場跡』(入口前広場)と『旧国鉄烏山駅舎』の2箇所において当研究室ゼミ生が遺産の解説を行うこととなり、市内に現存する近代化遺産の内13施設の解説用パネルB1サイズ6枚が制作された。このパネルは、調査の進捗を踏まえ新しいデータを逐次加えながら更新しており、『まち研事務局』に保管されるとともに、現在も各種イベント等に活用されている(現在は7枚のパネルに整理)。

以下に、当該年度における当事業の関連資料を示す。

《資料3》 主催事務局から送付された『近代化遺産全国一斉公開2006』の共通ポスター

《資料4》 足利工業大学が制作した『解説用パネル』(①～②) *情報を更新した現在のパネル

《資料5》 当事業の様子を示すスナップ

《資料3》 主催事務局から送付された『近代化遺産全国一斉公開2006』の共通ポスター



《資料4》 『解説用パネル』の原稿（その1）

那須烏山市の近代化遺産

足利工業大学 工学部 都市環境工学科
福島研究所【専攻：土木史、都市計画、地域計画】
〒920-8528 栃木県那須市大野町208-1
TEL:0284-22-9587 FAX:0284-64-1061

東京動力機械製造株式会社地下工場跡【平成24年度土木学会選奨土木遺産】 (駒島酒造地下低温貯蔵庫)

この洞窟は、第2次世界大戦末期に戦車を製造するために建造された地下工場跡である。

昭和19年11月に東京動力機械製造(株)の疎開が決まり、山裾に半地下式工場が建造され、隣接してこの地下工場も造られた。半地下式工場では、終戦までに約20台の戦車が製造されたとされている。しかし、この地下工場では戦車を製造することなく終戦を迎えている。

地下工場は、高さ幅とも3.5mの3本の坑道とそれを結ぶ5本の横坑で構成され、総延長は600mである。

地下工場跡は酒蔵(さかぐら)として使用され、さらに地域のイベントなどにも活用されている。

この施設は、風化しつつある戦争の記憶を無言で語り継ぐ貴重な平和の語り部であり、後世に伝えていくべき遺産である。また、地域文化の発信・文化交流施設として貴重な地域資源ともいえる。



広い空間構造



旧地下工場の平面図

近代化遺産全国一斉公開 初回はなすからすやま

「近代化遺産ツアー」での歩測による距離測定競技

福島研究会ゼミ生によるツアー解説

那須烏山市の近代化遺産

足利工業大学 工学部 都市環境工学科
福島研究所【専攻：土木史、都市計画、地域計画】
〒920-8528 栃木県那須市大野町208-1
TEL:0284-22-9587 FAX:0284-64-1061

境橋【平成19年度土木学会選奨土木遺産】

境橋は、主要地方道常陸太田那須烏山線の那須川の渓谷に架けられた橋長112.5mの上落式RCオーブンスパンドル(開度一開度のある側壁)アーチ橋で、アーチ橋はシルエットそのものが意匠性に優れているといわれている。

現在の橋は、昭和12年に竣工した3代目の橋で、初代の橋は明治30年に舟を横に並べて板を置いただけの舟橋。2代目は大正9年に洋式木橋(洋式を模倣したトラスの木橋)が架けられていた。

現橋の設計者は、関東大震災後の帝都復興局長橋梁課長として隅田川橋梁群の設計など、百数十橋を手がけた橋梁設計の第一人者・成瀬勝武で、『戦前土木名匠100選』に数えられる成瀬勝武の著書『弾性橋梁』では、境橋の設計計算書が31ページにわたって紹介されている。

橋脚上には半円バルコニーが左右対称に設けられている。近代のバルコニー付きRC橋は、全国で8橋しかない貴重なものである。

また、那須川屈指の景勝地に融合した優美な景観から平成19年度土木学会選奨土木遺産に認定された。

境橋は、当代会における橋梁設計の第一人者によるモダンな発想と最新の技術によって建造された時代を代表する橋であり、今も近代の華やきを水面に映している。



成瀬勝武著「弾性橋梁」所収の境橋

平成19年度からすやまフォトコンテスト入賞作品「境橋の橋脚」藤原隆二氏撮影

土木学会選奨土木遺産プレート

土木学会選奨土木遺産認定書

設置された近代化遺産解説板



アーチスパン約37m

アーチライズ4.5m

アーチリング 中央部の厚さ60cm

側面図(「橋梁台帳」より)

那須烏山市の近代化遺産

足利工業大学 工学部 都市環境工学科
福島研究所【専攻：土木史、都市計画、地域計画】
〒920-8528 栃木県那須市大野町208-1
TEL:0284-22-9587 FAX:0284-64-1061

旧烏山病院 (現烏山和紙会館)

旧 烏山病院は、大槻清吉を発起人代表とする地元の実業家数名が、当時の金額にして6万円の資金を募り、株式会社烏山病院として大正12年に開業された。

3棟の病棟が連なった当時の概観は、明治40年代から昭和戦前期にかけて活躍した松井天山の烏山館にも描かれている。

現在は、地元の伝統工芸品・烏山和紙を展示・販売する烏山和紙会館として再生されている。なお、烏山和紙を代表する程村誠は昭和45年3月に烏山町重要有形文化財に、そして昭和52年6月に国の無形文化財にも選定されている。

建物の構造は、木骨モルタル造二階建て、切妻屋根の西洋風建築物である。

特徴は、縦長の上げ下げ窓や半円形のドーマー窓など、大正後期から昭和初期に流行した新しい芸術思潮であるドイツ表現主義建築の影響が見られる。また、重厚な玄関ポーチやその上部に左右対称に描かれた10個の連円の重なる白壁の縦線(こてえ)から換気口のデザインなど、堂々としたデザイン性も感じられる。

江戸期以降の木造家屋が多く残る中の中に建てられた西洋風建築物は、新しい時代の予感を誘ったものと思われる。時代の要請に対応した近代的教育を備えた病院建築物から、地域の伝統技術を象徴する産業会館へ、旧烏山病院(烏山和紙会館)の重厚にして優美な造形は、懐かしい甘やかな香気とともに、近代建築の精華が息づいている。



松井天山「新木曾烏山真景」の一部(大正13年)

3連の半円形ドーマー窓

鍍絵(こてえ)

換気口

上げ下げ窓

那須烏山市の近代化遺産

足利工業大学 工学部 都市環境工学科
福島研究所【専攻：土木史、都市計画、地域計画】
〒920-8528 栃木県那須市大野町208-1
TEL:0284-22-9587 FAX:0284-64-1061

旧国鉄烏山駅舎と森田トンネル ～近代化を支えた鉄道施設～

《国鉄烏山駅舎》

明治14年にわが国で初めての私鉄として、日本鉄道が開通した。

日本鉄道の宝積寺駅から分岐し烏山駅までの烏山線が開通したが大正12年で、これに伴って開設されたのが烏山駅舎である。この烏山線は宝積寺から烏山駅まで全長20.4kmである。

構造は瓦葺き切妻屋根木造平屋建てで当時の駅舎には2つのドーマー窓が存在したが、その後の改修でドーマー窓は撤去された。しかし、全体の輪郭は当時を彷彿とさせている。

烏山駅舎は、新しい交通体系の革新をおとし地域産業の興隆に果たした役割だけにとまらず、文化移入の窓口としてその近代化を支えた貴重な歴史遺産である。



1923(大正12)年当時の駅舎(「烏山町史」より)

烏山駅前に設置された近代化遺産解説板

《森田トンネル》

森田トンネルは、烏山線の通称と小塩(こばな)駅間、宝積寺駅から16.58km(起点)、16.94km(終点)に位置する総延長356.31mのトンネルである。

構造型は、コンクリート造、ポータルは馬蹄形(ばていけい)甲型という断面で、全体的に狭い断面形状である。最大幅は4.5m、レール面上の高さ4.6m、覆工厚0.48mで、トンネル内の勾配は25パーミル(‰)である。この25‰とは、水平距離1000mに対して高さが25mの勾配をいう。

「烏山線建設工事概要」によると、使用セント量(トン)は10297噸(トン)で、約1230tであることが記されている。

烏山線には鉄道唱歌が歌われており、その中で工事の過酷さ・難工事であったことがうかがえる。

～「烏山線」鉄道唱歌～ 及川誠二 作歌

2. 窓にもたれて朝風を 受ける折しも一聲の 汽笛と共に吾が汽車は 烏山を出でにけり

汽笛一聲トンネルに 我等が汽車は入りけり 此處難工の ところ 延長間に三町餘



レール面上の高さ 4.6m

覆工厚 0.48m

最大幅 4.5m

例: 拡大図

25‰(25%)

25m

縦断面図(「土木構造物保守台帳」より)

開業当時の森田トンネル

《資料4》 『解説用パネル』の原稿（その2）

那須烏山市の近代化遺産

足利工業大学工学部 都市環境工学科
 福島研究室(東京) 土木系 都市計画系 地域計画
 〒326-8558 栃木県足利市大野町28-1
 TEL: 0284-42-0005 FAX: 0284-94-1061

烏山防空監視哨

昭和16年12月17日「防空監視隊令」(勅令1136号)の施行を受け、栃木県では、「栃木県防空計画」が定められた。

この栃木県防空計画では、防空監視隊本部が宇都宮・大田原・佐野の3ヶ所に設置された。哨員は、隊長・副隊長・隊員24名で構成されており、8人3班に分けられ、3日交代で勤務していた。

烏山では、この計画を基に「烏山町防空基本計画」が定められている。

監視哨は、はじめ毘沙門山頂に設置(倉上)された。その後、筑紫山頂にコンクリート製(喇叭型)が設置された。外径4.25m・内径2.76mおよび高さは1.50mである。

このような軍事遺産は、風化しつつある戦争の記憶を今に伝え、「平和の語り部」として後世に伝えていくべき貴重な遺産として位置づけられる。

番号	本部および哨名	番号	本部および哨名
	宇都宮監視隊本部	12	祖母井監視哨
1	宇都宮監視哨	13	益子監視哨
2	藤原監視哨	14	真岡監視哨
3	日光監視哨	15	西大戸監視哨
4	足尾監視哨	16	久下田監視哨
5	馬頭監視哨	17	久野野監視哨
6	烏山監視哨	18	湯本監視哨
7	喜連川監視哨	19	大山田監視哨
8	氏家監視哨		補助監視哨名
9	国本監視哨	20	日光局
10	鹿沼監視哨	21	板橋股所
11	茂木監視哨	22	黒部出張所

「防空監視隊令」勅令1136号

鳥山防空監視哨(現状)

CGで屋根を付けた監視哨(復元)

那須烏山市の近代化遺産

足利工業大学工学部 都市環境工学科
 福島研究室(東京) 土木系 都市計画系 地域計画
 〒326-8558 栃木県足利市大野町28-1
 TEL: 0284-42-0005 FAX: 0284-94-1061

烏山通運(柵)石造り倉庫群

JR烏山線の烏山駅前に、重厚な行まいをみせる石造りの倉庫が3棟併設されている。これらの倉庫群は栃木県産の石材である大谷石造りであり、建造年は昭和14年に2棟、15年に1棟造られた。

烏山通運の創設者は新井萬吉であり、明治30年以降運送業・通運業を開業、また大正10年には、烏山通運株式会社(内国通運会社取引店)を創設している。

大正12年に国鉄烏山線が開通した後、宝積寺・馬頭など近隣の通運会社を統合して現在に至っている。

また、新井家は、明治5年に郵便取扱所を開設した二代目阿久津幸平から事業を引き継ぎ、明治25年に郵便局を開業するなど、言わば近代以降における当地方の輸送業務を一手に担ってきたことになる。

建造当初の入口は欠円アーチである。高さ197cm・幅182cm・ライズ62cmで、面積は198.34㎡である。当時は、物資の搬入に大八車が使われていたので、この大きさでも十分だったと思われる。現在はフォークリフトが出入りできるように新しい入口に代えられており、欠円アーチの入口は使われていない。

また、建物の正面・側面・背面には多数のバットレスが設置されており、その景観は圧巻である。

近代化の象徴としての鉄道の開通と、それに伴う駅前における石造り倉庫群の建造。重厚かつ端正な倉庫群は地域産業を支えてきた拠点施設として当時の風情を今に伝えるとともに、現在も倉庫としての機能を継続している。

那須烏山市の近代化遺産

足利工業大学工学部 都市環境工学科
 福島研究室(東京) 土木系 都市計画系 地域計画
 〒326-8558 栃木県足利市大野町28-1
 TEL: 0284-42-0005 FAX: 0284-94-1061

旧烏山学館 (現烏山高等学校川俣記念館)

旧烏山学館は、地域における教育の重要性を唱えた川俣英夫が、私財を投じて明治40(1907)年に設立された学校建築物である。本館の竣工は明治42(1909)年に行なわれた。

建築当時の建物の構造は木造平屋建てで、玄関ポーチを中央に置いた左右対称の建築物だった。外壁は下見板張り、内部構造は、窓からは板張りの堅羽目で、上は白色の漆喰になっている。

本館には戦前まで『マスト型三角形鉄骨国旗掲揚塔』が立っていたが、戦時中に供出され撤去された。また、この塔の部材構成は4面とも異なっており、貴重な資料である。

本館は、昭和42(1967)年に新館竣工に伴い川俣記念館として保存された。同45(1970)年、新体育館建設に伴い現在の場所に移築され、旧校長室と事務室は原型に近い形で残っている。

旧烏山学館は、古色を基調とした近代の風情漂う荘重剛健な建築物である。

マスト型三角形鉄骨国旗掲揚塔(背面図)

旧町立烏山実践女学校講堂 (現栃木県立烏山女子高等学校講堂)

烏山町立実践女学校は、大正10(1921)年に烏山尋常高等小学校に併設され開校した。

この講堂は、昭和13(1938)年に、当時の町長であった新井萬吉からの講堂新築の寄贈を受け、地元の吉田友吉(吉田組)によって築造された。

この建物は、吉田組の設計・施工により現存する貴重な建築物である。

ウェネチアンウィンドウ
 ピラスター

この建物の正面・側面・背面には多数のバットレスが設置されており、その景観は圧巻である。

近代化の象徴としての鉄道の開通と、それに伴う駅前における石造り倉庫群の建造。重厚かつ端正な倉庫群は地域産業を支えてきた拠点施設として当時の風情を今に伝えるとともに、現在も倉庫としての機能を継続している。

《資料5》 当事業の様子を示すスナップ



旧国鉄烏山駅舎 (2006. 10. 21)



手前に『共通ポスター』を掲示している



東京動力機械製造(株)地下工場跡の広場(10. 22)

(2) 第2回 (2007年度)

2回目の開催となる2007年度は、10月20日から21日の2日間にわたって開催された。“公開事業”では、前年度公開の3施設に新たに『境橋』を加え、前回同様に当研究室ゼミ生による解説がパネルを使って行われた。『境橋』は、当年の“土木学会選奨土木遺産”に認定されたことから、公開施設に加えたものである。また、“企画事業”として、公開施設の一つ『東京動力機械製造(株)地下工場跡』入口前広場において、事業2日目となる21日にコンサートが開催された。栃木県佐野市を拠点に活動している『フォークデュオ“さのっこ”』による野外コンサートで、生い茂る木々の緑に囲まれながら、深まる秋へと移ろう季節の気配を感じるひと時であった。

以下に、第2回開催に関する資料を示す。

《資料6》 足利工業大学福島研究室が作成した第2回開催ポスター

《資料7》 当事業の様子を示すスナップ

《資料6》 足利工業大学福島研究室が作成した第2回開催ポスター

『近代化遺産全国一斉公開2007』のご案内

幕末から第二次世界大戦期までの間に建設され、わが国の近代化に貢献した産業・交通・土木に係る建造物などの近代化遺産は、新たな観光資源としてまちづくりに活用が期待されています。「近代化遺産全国一斉公開2007」に、那須烏山市も参加いたします。企画イベントとして下記により古酒の試飲会とコンサートinどうくつ酒蔵(地下工場跡)を実施いたします。お誘い合わせの上、ご来場をお待ちいたします。秋の一日、楽しいひとときをお過ごし下さい。

◆公開物件(日時:10月20日(土)・21日(日)10時~17時)

- ・東京動力機械製造株式会社地下工場(現 島崎酒造株式会社どうくつ酒蔵)※パネル展示による解説を行います。
- ・国鉄烏山駅舎(現 JR烏山線烏山駅舎)※パネル展示による解説を行います。
- ・烏山病院(現 烏山和紙会館)※湯茶接待いたします。
- ・境橋※現地にて構造等の特徴について解説いたします。

◆企画事業

古酒の試飲とコンサートinどうくつ酒蔵

・とき:10月21日(日)(13時~15時)
・出演:フォーク・デュオ「さのっこ」
※入場は無料です。

■主 催 那須烏山市まちづくり研究会
■問い合わせ 経済環境部商工観光課商工係
TEL 0287-83-1115

《資料7》 当事業の様子を示すスナップ



“さのっこ”のコンサート



烏山駅舎での解説風景

(3) 第3回(2008年度)

2008年度の『近代化遺産全国一斉公開』事業は、10月25日から26日の2日間開催され、“公開事業”として、前回公開した4件に『烏山防空監視哨』を加え5件が公開された。この『烏山防空監視哨』は市内の筑紫山山頂に築造されたコンクリート製の円形構造物で、第二次大戦時に敵機の飛来を監視し宇都宮市に置かれていた監視隊本部に通報するための施設である。当市には戦争に関する遺産がいくつか現存しており、当市の特徴の一つであることから、今回公開されることになった。これまでと同様に『東京動力機械製造(株)地下工場跡』と『旧国鉄烏山駅舎』にて当研究室ゼミ生による遺産解説が行われ、また、新しい企画として、近代化遺産および国づくりに関するビデオの放映が烏山公民館において行われた。

以下に、第3回開催に関する資料を示す。

《資料8》 足利工業大学福島研究室が作成した第3回開催ポスター

《資料9》 来場者に配布した当市の近代化遺産案内図

《資料10》 当事業の様子を示すスナップ

《資料8》 足利工業大学福島研究室が作成した第3回開催ポスター

『近代化遺産全国一斉公開2008』が開催されます！！

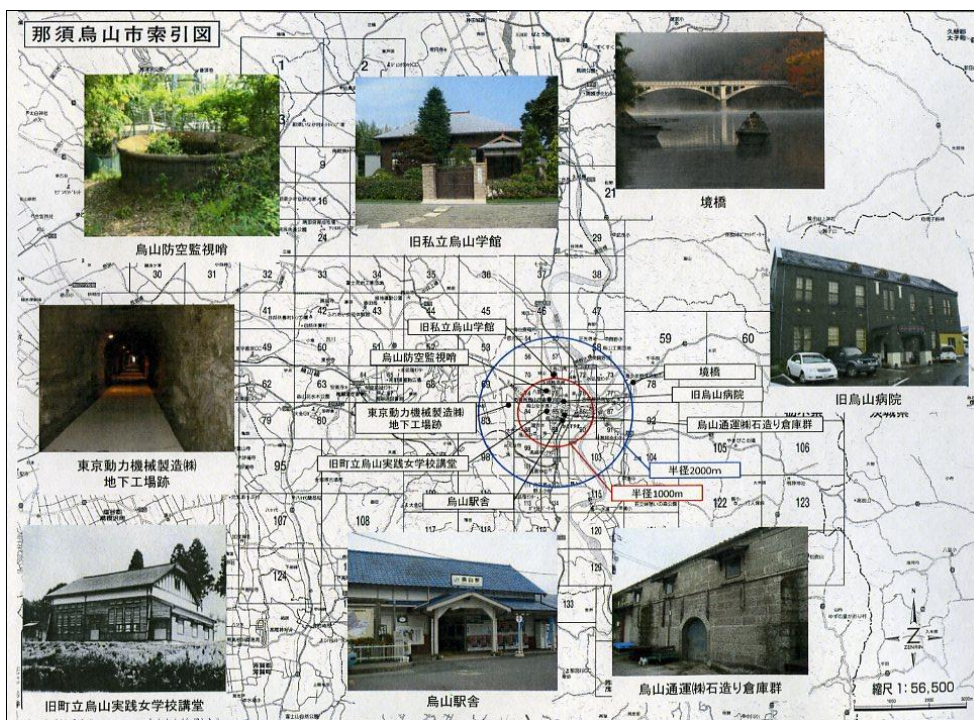
黒船の来航によって国が開かれた幕末から明治・大正・昭和戦前にかけて、新しい技術や文化・制度の導入によって建造された産業・交通・土木・軍事・教育・文化施設など、日本の近代化に貢献してきた構造物や建築物を**近代化遺産**と呼んでいます。
那須烏山市では、市内に残る近代化遺産を活用したまちづくりを進めており、平成19年度から「那須烏山市の近代化遺産」解説板を設置しています。
さて、この度、全国各地で同時開催される「近代化遺産全国一斉公開2008」に、那須烏山市も参加いたします。みなさまお誘い合わせの上、ご来場下さいますようお願いいたします。

- ◆日時:10月25日(土)・26日(日)10時～16時
- ◆公開遺産
 - ◎ パネル展示による解説会場
 - ・旧国鉄烏山駅舎(現JR烏山駅舎)
 - ・東京動力機械製造株式会社地下工場跡(現 榑島崎酒造どうくつ酒蔵)
 - ◎ 現地ご案内いたします 熟成酒の無料試飲会実施!
 - ・旧烏山病院(現 烏山和紙会館)
 - ・境橋(平成19年度土木学会選奨土木遺産に認定されています)
 - ・烏山防空監視哨
- ◆ビデオ放映のご案内
 - ◎ 日時・会場:10月26日(日)10時～16時
烏山公民館
 - ◎ アニメーションビデオ(国づくりの歴史)や全国の近代化遺産紹介ビデオを放映致します。
- 主 催: 那須烏山市まちづくり研究会
- 問合せ: 那須烏山市商工観光課
TEL 0287-83-1115





《資料9》 来場者に配布した当市の近代化遺産案内図



《資料10》 当事業の様子を示すスナップ



ビデオ放映の様子



パネル解説の様子

(4) 第4回(2009年度)

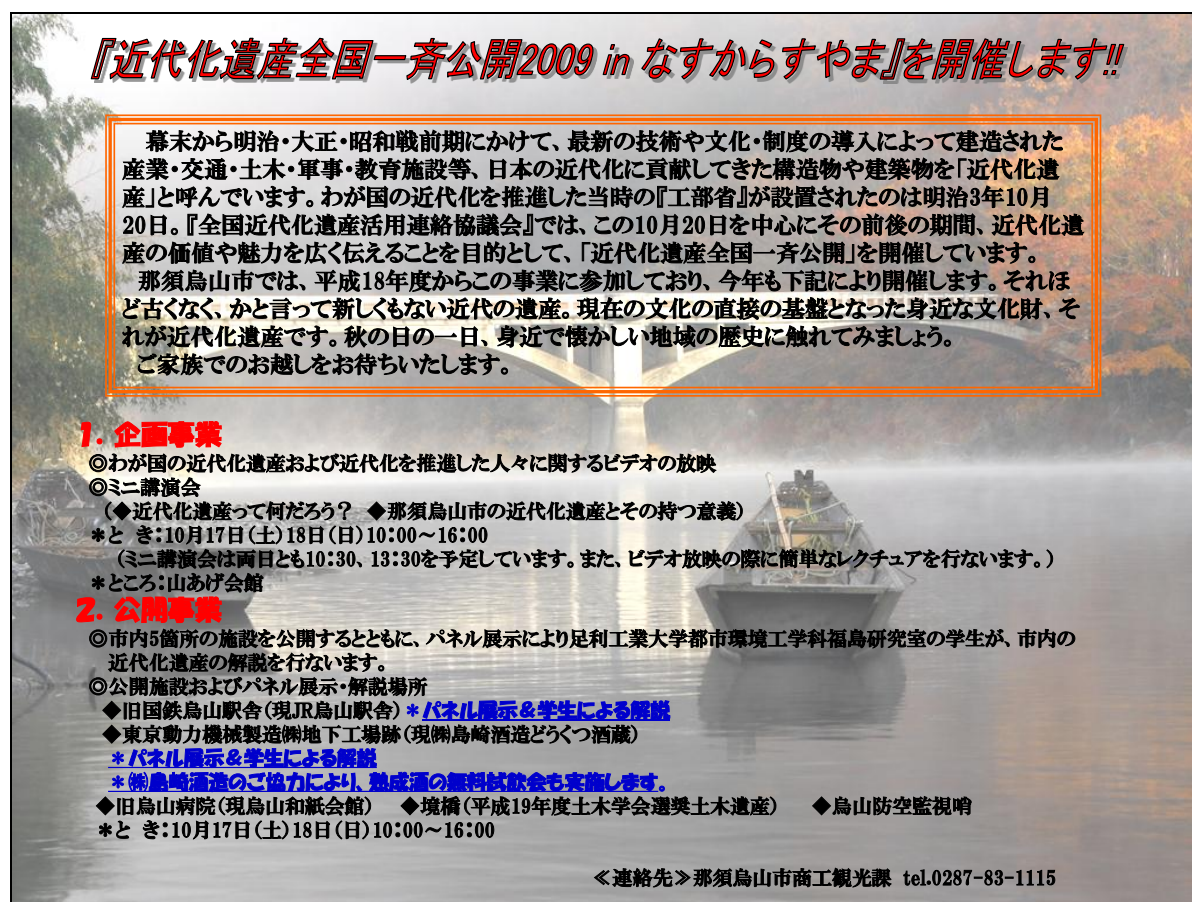
『まち研』事業として取組んできた『近代化遺産全国一斉公開』事業は、第4回目となる2009年度から事業名に市名を冠し、『近代化遺産全国一斉公開 2009in なすからすやま』として10月17日・18日の2日間開催された。“公開事業”は前回と同じく近代化遺産施設5件が公開され、『東京動力機械製造(株)地下工場跡』および『旧国鉄烏山駅舎』において当研究室ゼミ生による解説が行われた。また、前回同様にビデオ放映が行われるとともに、新たに“企画事業”として足利工業大学の福島二郎准教授による“ミニ講演会”が市の観光情報施設『山あげ会館』において開催された。今回の開催期間における来訪者数は303名であり、当事業が恒例行事として定着してきたことがうかがえる。

なお、今回のポスターは『まち研事業』として開催されてきた『フォトコンテスト』の入賞作品を用いて、当研究室が作成したものである。

以下に、第4回開催に関する資料を示す。

- 《資料 11》 『近代化遺産全国一斉公開 2009in なすからすやま』のポスター
- 《資料 12》 来場者に配布した近代化遺産案内図
- 《資料 13》 当事業の様子を示すスナップ

《資料 11》 『近代化遺産全国一斉公開 2009in なすからすやま』のポスター



『近代化遺産全国一斉公開2009 in なすからすやま』を開催します!!

幕末から明治・大正・昭和戦前期にかけて、最新の技術や文化・制度の導入によって建造された産業・交通・土木・軍事・教育施設等、日本の近代化に貢献してきた構造物や建築物を「近代化遺産」と呼んでいます。わが国の近代化を推進した当時の『工部省』が設置されたのは明治3年10月20日。『全国近代化遺産活用連絡協議会』では、この10月20日を中心にその前後の期間、近代化遺産の価値や魅力を広く伝えることを目的として、「近代化遺産全国一斉公開」を開催しています。

那須烏山市では、平成18年度からこの事業に参加しており、今年も下記により開催します。それほど古くなく、かと言って新しくもない近代の遺産。現在の文化の直接の基盤となった身近な文化財、それが近代化遺産です。秋の日の一日、身近で懐かしい地域の歴史に触れてみましょう。ご家族でのお越しをお待ちいたします。

1. 企画事業

- ◎わが国の近代化遺産および近代化を推進した人々に関するビデオの放映
- ◎ミニ講演会
(◆近代化遺産って何だろう? ◆那須烏山市の近代化遺産とその持つ意義)
*と き:10月17日(土)18日(日)10:00~16:00
(ミニ講演会は両日とも10:30、13:30を予定しています。また、ビデオ放映の際に簡単なレクチャーを行いません。)
- *と ころ:山あげ会館

2. 公開事業

- ◎市内5箇所の施設を公開するとともに、パネル展示により足利工業大学都市環境工学科福島研究室の学生が、市内の近代化遺産の解説を行います。
- ◎公開施設およびパネル展示・解説場所
◆旧国鉄烏山駅舎(現JR烏山駅舎) ***パネル展示&学生による解説**
◆東京動力機械製造(株)地下工場跡(現(株)島崎酒造どうくつ酒蔵)
***パネル展示&学生による解説**
***(株)島崎酒造のご協力により、熟成酒の無料試飲会も実施します。**
- ◆旧烏山病院(現烏山和紙会館) ◆境橋(平成19年度土木学会選奨土木遺産) ◆烏山防空監視哨
- *と き:10月17日(土)18日(日)10:00~16:00

《連絡先》那須烏山市商工観光課 tel.0287-83-1115

《資料 12》 来場者に配布した近代化遺産案内図



《資料 13》 当事業の様子を示すスナップ



ミニ講演会の様子

パネル解説の様子



(5) 第5回 (2010年度)

『まち研』が主催する『近代化遺産全国一斉公開 2010in なすからすやま』は第5回目を迎え、10月23日と24日の2日間にわたって開催された。また、今回の開催企画に際し、“近代化遺産&コンサート～学びと感動のハーモニー～”としてテーマが明記された。

“公開事業”は前回同様に市内の近代化遺産5件が公開されるとともに、当研究室ゼミ生による解説が『東京動力機械製造(株)地下工場跡』と『旧国鉄烏山駅舎』の2箇所において行われた。“企画事業”では、今回3つの事業が企画された。一つは、足利工業大学の福島二郎准教授による講演会の開催であり、公開施設の一つ『東京動力機械製造(株)地下工場跡』が会場となった。この『東京動力機械製造(株)地下工場跡』は、第二次大戦時に戦車工場として山腹を掘削し建造された坑道跡であり、総延長660mに及ぶ巨大な地下空間施設である。二つ目の企画は、この巨大な地下空間内でのコンサートの開催である。地下空間という暗闇の中で、当市の伝統工芸品・烏山和紙で創作された照明とのコラボ企画である。三つ目の企画は、「まちなか観光ツアー～歩いてみよう近代化遺産～」と銘打ち、当研究室ゼミ生が市内の近代化遺産を案内する企画で、モニターツアーとして今後のツアー企画の基礎資料とする試みであった。23日の公開施設への来訪者数70名、同じく24日は60名であり、またコンサート140名、モニターツアー23名の参加があった。以下に、第5回開催に関する資料を示す。

《資料14》 『近代化遺産全国一斉公開 2010in なすからすやま』のポスター

《資料15》 来場者に配布した近代化遺産案内図

《資料16》 当事業の様子を示すスナップ

《資料14》 『近代化遺産全国一斉公開 2010in なすからすやま』のポスター

■『近代化遺産全国一斉公開2010 in なすからすやま』■



①

わが国の近代化に貢献した産業・交通・土木に係わる建造物などの近代化遺産は、新たな観光資源としてまちづくりに活用が期待されています。そのような近代化遺産が全国一斉に公開されます。
那須烏山市もこの事業に参加します。お問い合わせの上、多くのおみなさまのご来場をお待ちしています。

2010 10/24(日)

近代化遺産 & コンサート
～学びと感動のハーモニー～

場所 榊島崎酒造どうくつ酒蔵 (入場料 無料)

①講演会 13:00から
「近代化遺産を活用したまちづくり」
足利工業大学都市環境工学科 福島二郎准教授

②テグリアーライブ 14:00から
テグリアーライブ(Vo) 大地と響きあふ歌子 その歌声は風のように遠くを運び、和紙の灯りやスチールは煌びら 新たな世界を奏でる

長沢ヒロ (Vo.G.B) 数々のヒット曲を生み出し、自身もアーティストに磨かれ、CMソングやライブでもありたいと活動する4人のメンバーによる、テグリアーライブの魅力を伝えるライブ

高橋まこと (P) 日本の伝説の心で BOB DYLAN のライナー、経験者 10代+LAX に参加、選曲 FM: BEAT / ATOMIC DRUM と呼ばれている。

和紙灯り作家 藤田 泰二の照明での幻想的なステージです
※先着100名 問合せ先への事前申込が必要です。
駐車台数に限りがあります。公共交通機関をご利用ください。

③まちなか観光ツアー
「歩いてみよう近代化遺産」
足利工業大学福島研究室の学生がご案内します。

コース
(1) 旧国鉄烏山駅舎(10時出発)
(2) 烏山通運榊石造り倉庫群
(3) 旧烏山病院
(4) 榊島(土木学会選奨土木遺産)
(5) 山あけ倉庫(正午到着予定)

※参加料 無料(予約先着20名 問合せ先まで電話等で申込み。締切10月15日) (テグリアーライブ)

2010 10/23(土)・24(日)

近代化遺産の公開 (10:00~16:00 無料)

① 榊島(土木学会選奨土木遺産)
② 旧烏山病院(和紙会館)
③ 東京動力機械製造(株)地下工場跡 (現榊島崎酒造どうくつ酒蔵)
※パネル展示 & 解説 熟成酒の無料試飲

④ 烏山防空監視塔
⑤ 旧国鉄烏山駅舎(現JR烏山駅舎)
※パネル展示 & 解説

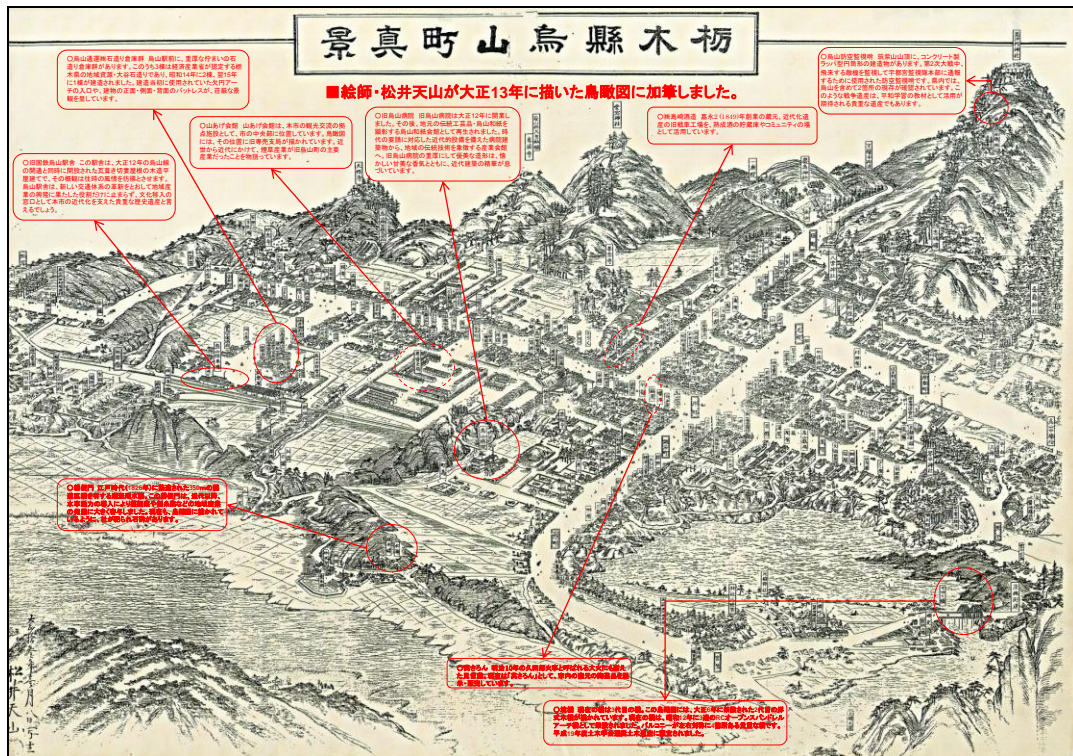





② ③ ④ ⑤

(問合せ先) 那須烏山市まちづくり研究会事務局・那須烏山市商工観光課 TEL. 0287 - 83 - 1115

《資料 15》 来場者に配布した近代化遺産案内図



《資料 16》 当事業の様子を示すスナップ

『東京動力機械製造(株)地下工場跡』での解説



講演会の様子

(6) 第6回(2011年度)

第6回目となる『近代化遺産全国一斉公開 2011in なすからすやま』は、10月22日・23日の両日開催された。今回の開催テーマは、“近代化遺産&コンサート～学びと癒しのハーモニー～”であり、前回の企画に新たに“朗読会”を加えての開催である。

“公開事業”として5件の遺産公開を行い、『東京動力機械製造(株)地下工場跡』と『旧国鉄烏山駅舎』の2箇所で作成パネルによる解説が行われた。“企画事業”は、前回同様に足利工業大学の福島二郎准教授による講演会、コンサートと烏山和紙の創作灯りのコラボが『東京動力機械製造(株)地下工場跡』の地下空間で開催された。また、モニターツアー「まちなか観光ツアー～歩いてみよう近代化遺産～」も当研究室ゼミ生の案内により開催された。来訪者数は、22日の公開施設50名、23日は公開施設が約100名、講演会・朗読会・コンサート約80名、モニターツアーが25名であった。

なお、“朗読会”は『NPO法人コミュニケーションラボ』理事長の樋口節子氏(足利市)、“コンサート”は前回に引き続きチグリハーブのライブが行われた(資料17参照)。

以下に、第6回開催に関する資料を示す。

《資料17》 『近代化遺産全国一斉公開 2011in なすからすやま』のポスター

《資料18》 当事業の様子を示すスナップ

《資料17》 『近代化遺産全国一斉公開 2011in なすからすやま』のポスター

《資料 18》 当事業の様子を示すスナップ



モニターツアーの様子

樋口さんによる朗読会



ライブの様子

(7) 第7回 (2012年度)

2012年度の“土木学会選奨土木遺産”が10月中旬に公表され、これまで当事業の中で大きな役割を果たしてきた『東京動力機械製造(株)地下工場跡』と『烏山防空監視哨』が認定を受けた。この認定は、両遺産がわが国を代表する歴史的建造物であり、後世に伝えていくべき重要な近代化遺産として認められたことを意味する。当市には、同選奨遺産として2007年度に『境橋』が認定されており、今回の認定2件を加え3件の選奨土木遺産保有自治体となった。

この認定を踏まえ、第7回目の開催となる『近代化遺産全国一斉公開 2012in なすからすやま』では、いくつかの記念事業が企画された。一つは、“那須烏山市の選奨土木遺産トークショー”として、大谷範雄市長・福田弘平氏(市観光協会会長)・島崎利雄氏(『東京動力機械製造(株)地下工場跡』管理者)によるパネルディスカッションが開催され、足利工業大学の福島二郎准教授がコーディネーターを務めた。また、「当市の放課後児童クラブを対象にした近代化遺産学習会」「放課後児童クラブ近代化遺産ツアー」「子供たちが描く近代化遺産絵画展」(いずれも『NPO 法人野うさぎくらぶ』と当研究室の共催)、市民グループ『なすから教育支援ネットワーク』と当研究室共催による「境橋を活用した環境教育プログラム」が開催されている。恒例となった『東京動力機械製造(株)地下工場跡』でのコンサート(来場者69名)、モニターツアー(参加者20名)も行われた。

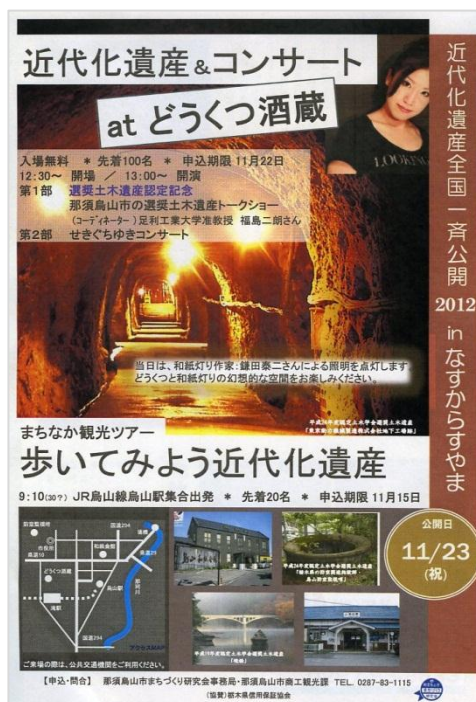
なお、当事業を主管する『全国近代化遺産活用連絡協議会』に、当市が加盟したのもこの年である。以下に、第7回開催に伴う関連資料を示す。

《資料19》 『近代化遺産全国一斉公開 2012in なすからすやま』のポスター

《資料20》 来場者に配布した近代化遺産案内図


《資料21》 当事業の様子を示すスナップ

《資料19》 『近代化遺産全国一斉公開 2012in なすからすやま』のポスター

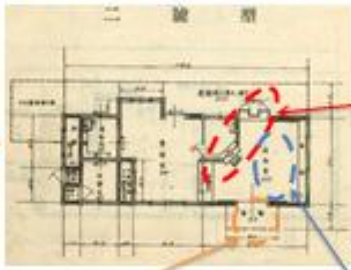


《資料 20》 来場者に配布した近代化遺産案内図（その1）

旧国鉄鳥山駅舎 (JR鳥山線鳥山駅舎)




開業当時 (大正12年) の駅舎
〔鳥山線全線開通記念誌より〕




鳥山駅舎などを
基にして作成。


小樽車庫本館展示室 二階室
〔国鉄 本館駅舎 国鉄 鉄道省より〕



改札窓口
改札の窓口は、建設当時の建物を復元させる間取り・形状が、現在も残っています。
〔鉄道のある風景 JR東日本・鳥山駅より〕



現在の鳥山駅舎
〔鉄道遺産プロジェクト鳥山線鳥山駅にてより〕



待合室
〔鉄道遺産研究所 北広島支所より〕

鉄道の豆知識

鳥山駅の2010年度の1日の平均利用者数は555人です。また、日本で一番利用者数が多い新宿駅は、2010年度1日の利用者数は73万5713人です(※複のみ)。
鳥山駅の1日の平均利用者数は、新宿駅の1日の平均利用者数の約1300分の1にあたります。
〔JR東日本:各駅の乗車人員(2010年度)より〕

鳥山通運(株)石造り倉庫群



石造り倉庫群(全体)
〔<http://blog.goo.ne.jp/4ly/>より〕



特徴① トラスを用いた広い空間構造
トラス構造という近代工法の導入により、これまでの日本の小屋組みと違い、広い空間が確保できる建物の建設ができました。
また榎本県特産の「大谷石」を用いることにより、火災に対して強い構造になりました。



特徴② バットレス
倉庫群をよく見ると、建物の正面・側面・背面に凍結痕みちたものがあります。これは「バットレス」と呼ばれるもので、転倒を防ぐために設置されています。
直線で仕立てた倉庫群は、地盤沈下を支えてきた礎石施設としての当時の輝きを今に伝えています。

バットレス
〔<http://sampoaka.co.jp/> og.jp/1743000/より〕



石造り倉庫群入口(現在、使用) 石造り倉庫群入口(昔、使用)
〔<http://blog.goo.ne.jp/4ly/>より〕

大八車
〔鳥山郷土資料館所蔵〕



フォークリフト
〔<http://www.amn.co.jp/anna/foku.htm>より〕

特徴③ 物を運ぶ歴史と2つの入口
倉庫群には、昔使用していた半円アーチの入口と、現在使用している四角い大きな入口の2つの入口があります。この2つの入口の大きさが違うのは、荷物の増加による運送方法の進化があるからです。物を運ぶ道具として、昔は「大八車」というものを使いました。現在は、「フォークリフト」を有用しています。写真を見ると、「大八車」と「フォークリフト」では高さが違います。そのため、昔の入口ではフォークリフトが入口を通れないため新しい入口を作る必要があったのです。
この2つの入口は、物を運ぶ道具の歴史を、私たちに教えてくれます。

旧鳥山病院（鳥山和紙会館）

江戸時代のたえずまい
・・・古い街並みが続く



（江戸 明治 道を日の面影より）

洋風建築物の出現・・・新しい時代が来た



旧鳥山病院は、大塚實吉さん（代表）として、当時のお金**6万円**を募り、大正12年に開業しました。

他郷の松井天山が大正13年に書いた「物本町鳥山温泉」の旧鳥山病院



—当時の6万円っていく6万？—
現在の米30kgを10000円とすると、大正12年の精米1石（142.25kg）が34円91銭であることから、当時の6万円は約814万円になります。
（『松山の文化史辞典』を基に算出）

洋風建築物の特徴



①半円空のドーマー窓



④デザイン性の高い換気口



②縦長の上下ドケ窓



③重厚な基礎



⑤10層の渦円で描かれた床

境橋（那珂川にかかる美橋）



水中施工の様子



バルコニー



郡祝儀



初代「舟橋」



2代目「洋式木橋」



オープンセルブールアーチ（開放アーチ）

オープンスバンドレルアーチ（閉鎖アーチ）の特点

- 橋の自重が他の橋に比べて軽い
- 洪水時に水の通過が良い



土木遺産プレート

《資料 21》 当事業の様子を示すスナップ



児童の近代化遺産ツアー（境橋・東京動力機械製造(株)地下工場跡/8月22日）



放課後児童クラブ学習会（荒川学童/8月24日）

トークショー（「広報那須烏山 2012.12」から抜粋）



子供たちが描く近代化遺産絵画展（「広報那須烏山 2012.12」から抜粋）

(8) 第8回 (2013年度)

『近代化遺産全国一斉公開 2013in なすからすやま』が11月10日に開催され、本市以外の近代化遺産を含めた初めての『近代化遺産バスツアー』が実施された。このバスツアーは、これまで3回にわたって開催されてきたモニターツアーのノウハウを生かし、市外からのさらなる集客を狙いとした企画である。バスツアーでは、本市および宇都宮市のJR駅を集合場所として、両市に存する近代化遺産4施設を巡るコースが設定され、最後の見学施設『東京動力機械製造(株)地下工場跡』では恒例となったコンサート鑑賞も組入れられた。見学コースの4施設はすべて“土木学会選奨土木遺産”に認定されており、栃木県を代表する重要な近代化遺産である。

当日は、『まち研』を構成している足利工業大学・宇都宮共和大学・国際医療福祉大学・白鷗大学とともに、市内のNPO・市民グループが賛助する中で実施された。また、当事業の開催を大きく報じたポスターは、この年にオブザーバーとして『まち研』に参加した栃木県立烏山高等学校の美術部がデザインしたものである。バスツアーへの参加者は、栃木県外からの参加も含め46名、コンサートには150名が参加した。以下に、第8回開催に伴う関連資料を示す。

《資料22》 『近代化遺産全国一斉公開 2013in なすからすやま』のポスター

《資料23》 当事業の様子を示すスナップ

《資料22》 『近代化遺産全国一斉公開 2013in なすからすやま』のポスター



《資料 23》 当事業の様子を示すスナップ



宇都宮市水道施設群（霧に煙る今市浄水場の浄水池と旧管理室の壮麗な洋館）



境橋を歩きながら見学する参加者達



シンガーソングライターせきぐちゆきコンサート



コンサート会場での大学生スタッフ紹介

(9) 第9回 (2014年度)

第9回目となる『近代化遺産全国一斉公開 2014in なすからすやま』は、11月16日に開催された。前年度から企画された『近代化遺産バスツアー』は、市民交流と当市への来訪機会を積極的に生み出すことを目標にしている。今回は、当市および那須塩原市のJR駅を起終点として、国の重要文化財に指定されている『那須疏水』と選奨土木遺産『晚翠橋』を巡り、当市に入り選奨土木遺産の『境橋』および『東京動力機械製造(株)地下工場跡』を訪ねるコースである。『東京動力機械製造(株)地下工場跡』では、恒例となったコンサートも開催された。

当日は、『まち研』を構成する4大学および本年度から『まち研』委員となった栃木県立烏山高等学校、さらにオブザーバーとして『まち研』の活動に係わる市民グループにより運営された。今回のポスターも、前年に引き続き烏山高等学校美術部が担当した。当事業への参加者は、バスツアー36名、コンサートは150名であった。

なお、今回のコンサートは、現代箏曲家・本間貴士氏とその仲間たちによる“雅楽コンサート”が『東京動力機械製造(株)地下工場跡』を会場として開催された。暗闇の中に烏山和紙で創られた仄かな灯りに浮かび上がる古式に倣った装束姿の演者たちの、幽玄なパフォーマンスに酔い痴れたひと時であった。以下に、第9回開催に伴う関連資料を示す。

《資料24》 『近代化遺産全国一斉公開 2013in なすからすやま』のポスター

《資料25》 当事業の様子を示すスナップ

《資料24》 『近代化遺産全国一斉公開 2013in なすからすやま』のポスター

近代化遺産全国一斉公開 2014 in なすからすやま

近代化遺産バスツアー 11月16日

◇見学場所 ①那須疏水
②晚翠橋
③境橋
④東京動力機械製造(株)地下工場跡
(どうくつコンサート鑑賞「享賓者・本間貴士 現代箏曲コンサート」)

◇解説 足利工業大学准教授 福嶋二朗さん

◇定員 40名

◇参加費 2,000円 (保険加入代・昼食代を含む)

◇出発 JR 烏山 駅前：午前7時30分
JR 那須塩原駅前：午前8時30分

◇申込方法 10月31日(金)までに電話等で下記問合せ先へ申し込む。
※近代化遺産バスツアーには、「どうくつコンサート鑑賞」が含まれています。

【申込・問合せ】 那須烏山市まちづくり研究会事務局
(那須烏山市商工観光課内) TEL.0287-83-1115
【協賛】 栃木県信用保証協会
【ポスターデザイン】 栃木県立烏山高等学校美術部

《資料 25》 当事業の様子を示すスナップ



那須疏水旧取水施設(解説/磯忍氏:那須塩原市文化財保護審議会会長)



晩翠橋の解説(栃木県大田原土木事務所)

境橋の解説(栃木県烏山土木事務所)



本間貴士 現代箏曲コンサート

(3) 『活動・成果報告会』について

福島 二郎・事務局

1. 成果報告会の開催までの経緯と開催目的

2006年7月14日に『那須烏山市まちづくり研究会』（以降、『まち研』と略記。）が発足し、同年8月30日に第1回委員会が開催された。この第1回委員会では、本会予算や本会を構成する各大学の活動計画等について意見交換が行われるとともに、活動成果の公表としての報告会開催の是非について協議が行われた。出席者は、大久保忠旦委員長をはじめとする大学側委員7名（大久保忠旦宇都宮共和大学副学長、鈴木博宇都宮共和大学教授、福島二郎足利工業大学助教授、安藤由美国際医療福祉大学専任講師、前橋明朗作新学院大学助教授、黒田英一字都宮大学助教授、大野邦雄とちぎ大学連携サテライトオフィスコーディネータ）、烏山商工会所属委員5名（沼田邦彦青年部長、福田長弘青年部副部長、荒井和美総務課長、金子正指導課長、加藤亨之主査）の計12名、また事務局からは3名が出席している。この席上、委員会活動やその運営に対し市から予算配当がある以上、何らかの報告が必要であるとの方向性が出された。しかしながら、あくまでも活動実績に対する報告であり、必ずしも成果を求めるものではないことが共通認識として確認された。また、『まち研』の創設について、市民への速やかな情報開示が必要であることも確認された。

第2回委員会では、報告会の実施に向けた計画概要が協議され（9月15日開催。協議事項（4）活動発表会の実施計画について）、第3回委員会（10月30日開催）において開催日時・会場および開催主旨・内容等についての大要が概ね了承された。当初、開催日時は11月25日（土）午後、会場は烏山商工会館2階研修室を案として事務局から提案があったが、市民に向けた『まち研』のお披露目であること、より多くの市民の参加を促すことを念頭に、日程および会場の選択、さらに開催内容の検討が行われた。その結果、①成果報告会の名称を『那須烏山市まちづくり研究会 活動中間報告会』とすること、②開催日時を休前日となる11月24日（金）午後7時に、③会場は烏山公民館第2研修室とするとともに、開催内容として、④研究会事業として実施した『フォトコンテスト』（後述するⅢ. 1.（4）参照）の表彰式と抱き合わせた開催概要が決められた。また、年度末には、当該年度における活動成果の報告会を開催することも、併せて決議された。

成果報告会を開催することの目的は、発足した『まち研』を構成する各大学の研究指標（各大学個々における研究課題と目標）、および『まち研』と市民との協働を念頭においた今後のありようの公表（研究会全体としての会の役割）である。このことは、活動中間報告会の委員向け開催通知（平成18年11月8日付）、および当該年度末に開催された活動成果報告会（平成19年3月11日開催）の委員向け開催通知（平成19年2月26日付）に、以下のように記されている。

……この報告会は、これまでの各大学における活動の中間報告（年度末は『成果報告』と記載）と今後の活動計画等を市民に公表することによって、そのまちづくり活動を理解して頂き、今後市民との協働を積極的に図ることを目的としております……

このように、成果報告会の目的として“まちづくり活動の理解”と“市民との協働”を企図することを謳っており、これはそのまま“本会が掲げる主要な目的”として位置付けられていたのである。

以下に、成果報告会の開催が議論された平成18年度第1回～第3回委員会の開催議事次第、活動成果報告会の委員向け開催通知（中間および年度末）を示す。

《資料1》 平成18年度那須烏山市まちづくり研究会 第1回～第3回委員会次第

《資料2》 活動成果報告会の委員向け開催通知

《資料1》 平成18年度那須烏山市まちづくり研究会 第1回～第3回委員会次第

<p>平成18年度 那須烏山市まちづくり研究会 第1回委員会次第</p> <p>日時：平成18年8月30日（水） 午後1時30分～ 場所：烏山商工会館2階 第1研修室</p> <p>1 開会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 経過報告</p> <p>4 協議事項 (1) 那須烏山市の補正予算計画について (2) 各大学における活動の現状と今後の計画について (3) 本会のシンボルマークについて (4) その他 ・ 共通居室の使用方法について ・ 活動に於ける会の役割と位置付けについて ・ 外部のまちづくり関係補助金について ・ <u>報告会の是非について</u> ・ 他</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>	<p>平成18年度 那須烏山市まちづくり研究会 第2回委員会次第</p> <p>日時：平成18年9月15日（金） 午後3時00分～ 場所：那須烏山市役所烏山庁舎2階 第5会議室</p> <p>1 開会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 経過報告</p> <p>4 協議事項 (1) 配当予算の提示について (2) シンボルマークの決定について (3) からすやまフォトコンテストの開催について (4) <u>活動発表会の実施計画について</u></p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>
<p>平成18年度 那須烏山市まちづくり研究会 第3回委員会次第</p> <p>日時：平成18年10月30日（月） 午後1時30分～ 場所：那須烏山市役所烏山庁舎2階 第5会議室</p> <p>1 開会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 経過報告</p> <p>4 協議事項 (1) からすやまフォトコンテスト各賞の決定について ・ 委員長賞 1点（賞金5万円） ・ 市長賞 1点（賞金3万円） ・ 商工会長賞 1点（賞金3万円） ・ JA組合長賞 1点（那須烏山産コシヒカリ1年分） ・ 佳作 5点（商品券3千円相当分） (2) <u>活動報告会の開催について</u> ・ 日時 平成18年11月25日（土） 午後1時30分～ ・ 場所 烏山商工会館2階 (3) その他</p> <p>5 閉会</p>	

≪資料2≫ 活動成果報告会の委員向け開催通知

平成18年11月8日

各まち研委員 様

那須烏山市まちづくり研究会
委員長 大久保 忠且

市まちづくり研究会活動報告会の開催について

晩秋の候、時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。
さて、過日第3回委員会において決定されました標記の報告会を下記により開催いたします。

この報告会は、これまでの各大学における活動の中間報告と今後の活動計画等を市民に公表することによって、そのまちづくり活動を理解していただき、今後市民との協働を積極的に図ることを目的としておりますので、各大学の委員の皆様にはお忙しい中大変恐縮ですが、当日の発表報告に向けてご準備いただくようお願いいたします。

また、当日は過日実施されました「第1回からすやまフォトコンテスト」の表彰式も行いますので、ご家族ご友人などお誘いあわせの上ご出席ください。

なお、当日の出欠について11月17日(金)までに事務局へご連絡ください。

記

1. 日時 平成18年11月24日(金) 午後7時～
2. 場所 烏山公民館2階 第2研修室
(那須烏山市中央2-13-8 烏山体育館北側)
3. 内容 ・第1回からすやまフォトコンテスト表彰式
・各大学による活動報告と活動計画
・その他、意見交換など

※ ご不明な点がございましたら事務局へお問い合わせください。

【事務局】那須烏山市 商工観光課
〒321-0692
栃木県那須烏山市中央1-1-1
TEL0287-83-1115 FAX0287-83-1142

平成19年2月26日

各まち研委員 様

那須烏山市まちづくり研究会
委員長 大久保 忠且

市まちづくり研究会活動報告会の開催について

麗月の候、時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。
さて、過日第4回委員会において決定されました標記の報告会を下記により開催いたします。

この報告会は、これまでの各大学における活動の成果報告と今後の活動計画等を市民に公表することによって、そのまちづくり活動を理解していただき、今後市民との協働を積極的に図ることを目的としております。

各大学の委員の皆様にはお忙しい中大変恐縮ですが、当日の発表報告に向けてご準備いただくようよろしくお願いいたします。

また、当日は多くの方に来場いただきたいと考えておりますので、ご家族ご友人などお誘いあわせの上ご出席ください。

なお、当日の出欠について3月5日(月)までに事務局へご連絡ください。

記

1. 日時 平成19年3月11日(日) 午後2時～
2. 場所 烏山公民館2階 第2研修室
(那須烏山市中央2-13-8 烏山体育館北側)
3. 内容 ・各大学による活動報告と活動計画
・その他、意見交換など

※ ご不明な点がございましたら事務局へお問い合わせください。

【事務局】那須烏山市 商工観光課
〒321-0692
栃木県那須烏山市中央1-1-1
TEL0287-83-1115 FAX0287-83-1142

2. これまでに開催された『成果報告会』の概要

(1) 平成 18 年度

2006（平成 18）年 11 月 24 日、創設された『那須烏山市まちづくり研究会』の活動報告会として、「那須烏山市まちづくり研究会活動中間報告会」が烏山公民館を会場として開催された。前節で述べたとおり、『まち研』の創設とその趣意を市民に公表することを主たる目的とし、また、より多くの市民に参集してもらうことを念頭に、当初計画の土曜日から平日（金曜日）の勤務明け午後 7 時にシフトしての開催である。

報告会は 2 部構成で、第 1 部は『まち研』主催による「第 1 回残したい風景～からすやまフォトコンテスト」（次節Ⅲ. 1.（4）参照）の表彰式が行われ、大久保忠旦委員長の開催挨拶および大谷範雄市長の来賓挨拶を挟み、第 2 部として活動報告会が開催された。報告会では、本会の構成大学の内、足利工業大学・作新学院大学・国際医療福祉大学・宇都宮共和大学の 4 大学により、それぞれ研究活動に係わる企画提案およびその現状報告が行われた。足利工業大学は旧烏山町地区を対象とした近代化遺産・蔵等の歴史的建造物調査の現況報告、国際医療福祉大学は研究テーマに“リタイア後の団塊世代による介護予防活動”を掲げ、那須烏山市の高齢化人口予測の現況等について、また、宇都宮共和大学は“研究課題と提案”として、那須烏山市の自然環境価値評価・地産地消素材の調査・クラインガルテンの可能性、および「林地草地の輪換システム」についての提案等が発表された。この中間報告会の来場者数は約 90 名であった。資料 4 に中間報告会の次第、資料 5 に中間報告会の発表風景を示す。

また、年間をとおしての最終報告会が、2007（平成 19）年 3 月 11 日に開催された。これは、当該年度における活動成果の公表を目的として、第 3 回委員会（10 月 30 日開催）においてその開催が決議されていたものである。開催日の 3 月 11 日は日曜日であり、烏山公民館を会場に午後 2 時からの開催であった。本会を構成する 5 つの大学が、それぞれ当該年度の活動内容およびその成果の報告を行った。足利工業大学は、中間報告会で発表した近代化遺産や蔵等の歴史的建造物に加え、山間部の自然景観の整備の方向性とその効果について CG 画像を作成して説明した。作新学院大学は、市内の空き店舗を活用して始めたカフェ経営の成果を、また、国際医療福祉大学は、中間報告会のテーマをさらに掘り下げ、市の高齢者人口の推定と自治体ボランティアについて報告が行われた。宇都宮共和大学も中間報告会で提示した 4 項目の課題&提案を踏まえ、烏山和紙原料の生産可能性および緑の環境価値評価について、また、宇都宮大学は那須烏山市のまちづくり例と題して発表が行われた。これらの発表は、足利工業大学・作新学院大学・国際医療福祉大学は学生が、また、宇都宮共和大学は大久保忠旦委員長、宇都宮大学は大野邦雄客員教授が発表を行った。参加者数は約 80 名であった。

資料 5 および資料 6 に、最終報告会のチラシおよび次第を示す。また、資料 7 に、報告会の発表風景を示す。

≪資料 3≫ 平成 18 年度中間報告会次第

≪資料 4≫ 中間報告会の発表の様子

≪資料 5≫ 平成 18 年度最終報告会の案内チラシ

《資料 6》 平成 18 年度最終報告会次第

《資料 7》 最終報告会の様子

《資料 3》 平成 18 年度中間報告会次第

市民の皆さん、お仕事でお疲れの中、ご参加頂きありがとうございます。

那須烏山市まちづくり研究会
活動中間報告会次第
と き:11.24(金)19:00~
と ころ:烏山公民館

第1部 表彰式
フォトコンテスト入賞者の表彰並びに副賞の贈呈

第2部 中間報告会

1. 開 会

2. あいさつ
那須烏山市まちづくり研究会委員長(宇都宮共和大学副学長)
大久保 忠 且 氏
那須烏山市長 大 谷 範 雄 氏

3. 企画提案及び中間発表
(1)足利工業大学
(2)作新学院大学
(3)国際医療福祉大学
(4)宇都宮共和大学

4. 閉 会

《資料 4》 中間報告会の発表の様子



 **那須烏山市まちづくり研究会** **入場無料**

活動報告会のお知らせ

開催日時：平成19年3月11日（日）午後2時～
開催場所：烏山公民館 2階

☆栃木県の大学5校の、
那須烏山市における活動を、
市民の皆さんにご報告!!

☆足利工業大学 近代化遺産の現状調査と評価
地域資源の抽出と活用についての一考案

☆作新学院大学 “ざ☆ばんち35”
鳥山和紙会館の前で、
学生がカフェを経営!! 担当学生がその成果を、
感謝の気持ちを込めてご報告致します!!

☆国際医療福祉大学 市の将来人口推定と自治体ボランティア

☆宇都宮大学 那須烏山市のまちづくり例


☆宇都宮 地産地消～鳥山和紙原料生産の可能性
共和大学 緑の環境価値評価、農業（畜産）の二酸化炭素放出について

第一回 報告会の様子

是非、報告会にお越しく下さい。心よりお待ちしております。

《資料 6》 平成 18 年度最終報告会次第


市民の皆さん、お忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。

那須烏山市まちづくり研究会
活動報告会次第

と き：3月11日（日）午後2時～
と ころ：烏山公民館 2階

1. 開 会
2. あいさつ
まちづくり研究会委員長（宇都宮共和大学副学長）
大久保 忠 且 氏
那須烏山市長 大 谷 範 雄 氏
3. 成果発表及び活動計画
(1) 足利工業大学
(2) 作新学院大学
(3) 国際医療福祉大学
(4) 宇都宮大学
(5) 宇都宮共和大学
4. 閉 会

《資料 7》 活動成果報告会の様子



(2) 平成 19 年度

『まち研』活動の 2 年目となる平成 19 年度の活動成果報告会は、第 2 回委員会 (2007.9.28) においてその開催と日時および会場が概ね確認され、さらに、第 3 回委員会 (2008.2.22) において参加各大学の発表順序や時間配分等の内容が決議された。

報告会は、年度末となる 2008 (平成 20) 年 3 月 2 日 (日) の午後 1 時から烏山公民館を会場として開催された。市内外から多くの参加者を募るべく、今報告会も「第 2 回からすやまフォトコンテスト」の表彰式との同時開催となった。

発表者は、これまでの構成 5 大学に、本年度から本会の構成団体として参画した小山工業高等専門学校を加えた 6 高等教育機関である。足利工業大学は、『地域資源を活用した地域の賑わいづくりに向けた活動』と題して、近代化遺産の石材案内板の製作、江戸期築造の水利施設『耕便門』の史的評価とまちづくりへの活用、市内中山間地域の資源調査と CG 活用による地域づくりの 3 テーマについて発表が行われた。国際医療福祉大学は、『那須烏山市の住みやすさについて』の意識調査の分析結果について報告された。この調査は、安藤由美研究室が作成したアンケートにより市内全域を対象に 2 月 1~8 日に実施されたもので、本報告会ではその詳しい分析結果が報告された。作新学院大学は、前年度から空き店舗の利活用として取り組んでいる『学生主体のコミュニティ・ビジネス・モデル』のチャレンジ・ショップについて、その活動成果が報告された。宇都宮大学 (とちぎ大学連携サテライトオフィス大野邦雄コーディネータ) は、那須烏山市女性団体連絡協議会との共催による『夢づくりワークショップ』の設置・開催について、また、宇都宮共和大学は、『地産地消のための烏山和紙生産技術』を中心に、その考え方・今後の取組み等について報告が行われた。今年度から新規参入した小山工業高等専門学校は、酒入陽子准教授が『那須烏山市と那須氏の歴史を探る』と題し、市民グループ「那須氏研究会」との共同による取り組みとして、市域と那須氏の繋がり の 解明 に 係 わ る 調 査、烏山城下と周辺村落の史的調査等について報告が行われた。成果報告会への参加者数は、約 60 名であった。

資料 8 に平成 19 年度の活動成果報告会の案内チラシを示す。また、資料 9 に報告会次第、資料 10 に報告会の発表風景を示す。

《資料 8》 平成 19 年度報告会の案内チラシ

《資料 9》 平成 19 年度報告会次第

《資料 10》 報告会の発表風景



那須烏山市まちづくり研究会

入
場
無
料

からすやまフォトコンテスト作品展示会 & 表彰式
“まち研”活動報告会 を開催します！

〔 日時：平成 20 年 3 月 2 日(日) 午後 1 時から
場所：烏山公民館 2 階 (烏山体育館北側) 〕

- ・今回応募のあったフォトコン作品136点を一斉に展示
- ・フォトコン全作品から入賞した各作品を表彰
- ・県内の大学等6校から“まちづくり活動”について市民に報告！

○ 各校の報告テーマ

◆ 足利工業大学

地域資源を活用した地域の賑わいづくりに向けた活動

◆ 国際医療福祉大学

【那須烏山市の住みやすさについて】意識調査アンケートの分析

◆ 作新学院大学

学生主体のコミュニティー・ビジネス・モデル ～那須烏山市チャレンジ・ショップ経営～

◆ 小山工業高等専門学校

那須烏山市と那須氏の歴史を探る

◆ 宇都宮大学

ワークショップで描く“夢のあるまちづくり” ～市の活性化のために～

◆ 宇都宮共和大学

地産地消のための烏山和紙生産支援など



多くのお越しを、心よりお待ちしております。

《資料 9》 平成 19 年度報告会次第

市民の皆さん！ お忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。

那須烏山市まちづくり研究会
活動報告会次第

と き：平成 20 年 3 月 2 日(日) 午後 1 時～
と ころ：烏山公民館 2 階

第 1 部 表彰式
第 2 回からすやまフォトコンテスト入賞者の表彰、副賞の贈呈

第 2 部 活動報告会


1. 開 会

2. あいさつ
まちづくり研究会委員長(宇都宮共和大学副学長)
大久保 忠且 氏
那須烏山市長 大谷 範雄 氏

3. 成果発表、活動計画

- ◆ 足利工業大学
地域資源を活用した地域の賑わいづくりに向けた活動
- ◆ 国際医療福祉大学
『那須烏山市の住みやすさについて』意識調査アンケートの分析
- ◆ 作新学院大学
学生主体のコミュニティー・ビジネス・モデル～那須烏山市チャレンジ・ショップ経営～
- ◆ 小山工業高等専門学校
那須烏山市と那須氏の歴史を探る
- ◆ 宇都宮大学
ワークショップで描く“夢のあるまちづくり”～市の活性化のために～
- ◆ 宇都宮共和大学
地産地消のための烏山和紙生産支援など

4. 閉 会



《資料 10》 報告会の発表風景



(3) 平成 20 年度

2008(平成 20)年度の『まち研』活動の報告会開催についての協議は、第 2 回委員会(2008.9.17)および第 3 回委員会(2009.2.19)に行われた。開催日時、会場、発表の方法・順番・時間割振り等について審議され調整が行われた。その結果、開催日は 2009 年 3 月 1 日の日曜日、開会時間は午後 1 時となった。また、会場は、これまでの烏山公民館から那須烏山商工会館に変更された。新たに会場となった那須烏山商工会館は、市の観光情報の発信拠点となる『山あげ会館』に隣接しており、市外からの参加者への配慮となる変更である。

報告会は、これまでと同様に『まち研』を構成する 5 大学等による発表形式で行われた。また、「第 3 回からすまフォトコンテスト」との同時開催である。足利工業大学は、市の新しい文化資源としてその評価と活用に取り組んできた近代化遺産の研究成果として、価値評価の掘り下げ・教材化・観光案内板の表現手法等について報告が行われた。国際医療福祉大学は、烏山高等学校と烏山女子高等学校での調査結果を踏まえた“住みたいまち”と“住みやすさ”についての意識調査の分析成果、また、市の活性化を目的に立案したソーシャルマーケティングプランについて報告された。小山工業高等専門学校は、“まちづくりへの歴史分野からの提案”として、市民グループ『那須氏研究会』との活動成果について報告された。具体的には、“稲積城 900 年祭”に向けた小字名等の史的調査と遊歩道計画、旧烏山町の町並み調査を踏まえた歴史史跡の活用、さらに、市民グループ「那須氏研究会」による稲積城に関する研究成果が報告された。宇都宮大学(とちぎ大学連携サテライトオフィス大野邦雄コーディネータ)は、前年度に那須烏山市女性団体連絡協議会との共催として始めた『夢づくりワークショップ』の成果を述べるとともに、市民アンケートを基に制作した 3 グループの成果品となる 3 つの模型が展示された。宇都宮共和大学は、“地産地消のための烏山和紙生産支援”について、大久保委員長によりその取り組みの現状が報告された。今回の報告会では、これらの構成大学等による発表に加えて、市民の有志「那須烏山市金券制度調査研究会」が金券制度の導入を見据えた調査報告についての発表が行われた。参加者数は、94 名であった。

資料 11 に、平成 20 年度の活動成果報告会の案内チラシを示す。また、資料 12 に報告会の発表風景を示す。

《資料 11》 平成 20 年度報告会の案内チラシ

《資料 12》 報告会の発表風景



那須烏山市まちづくり研究会

入
場
無
料

からすやまフォトコンテスト作品展示会 & 表彰式
“まち研” 成果報告会 を開催します！

〔 日 時 : 平成 21 年 3 月 1 日 (日) 午後 1 時から
場 所 : 那須烏山商工会館 2 階 (山あげ会館東側) 〕

- ・今回応募のあったフォトコン作品の展示
- ・フォトコン全作品から入賞した各作品を表彰
- ・研究グループから“まちづくり活動”について報告

○ 研究グループの報告テーマ

◆ 足利工業大学

- ・栃木県那須烏山市の地域資源を活用したまちづくりに関する一考察
- ・那須烏山市を事例とした近代化遺産の教材化に関する一考察
- ・那須烏山市の観光案内板のリニューアル化についての検討
- ・系譜評価に主眼をおいた那須烏山市の近代化遺産の再評価

◆ 国際医療福祉大学

- ・『住みたいまち』と『住みやすさ』に関する意識調査アンケートの分析
- ・ソーシャルマーケティングプラン『那須烏山に行こう』
～那須烏山市の活性化に向けた基礎調査及び具体的プランの立案～

◆ 小山工業高等専門学校

まちづくりへの歴史分野からの提案

◆ 宇都宮大学

ワークショップで描く“夢のあるまちづくり” ～市の活性化のために～

◆ 宇都宮共和大学

地産地消のための烏山和紙生産支援など

◆ 那須烏山市金券制度調査研究会

那須烏山市における金券制度導入に向けた調査



多くのみなさまのお越しを、心よりお待ちしております。

《資料 12》 報告会の発表風景



大久保委員長のあいさつ



足利工業大学の発表の様子



国際医療福祉大学の発表の様子



国際医療福祉大学のメンバー



足利工業大学のメンバー

(4) 平成 21 年度

『まち研』の活動とその成果の発表をとおして、市民への本会活動の存在と意義および市民との協働に向けた契機として開催されている報告会、2009（平成 21）年度は 2010（平成 22）年 3 月 7 日（日）に開催された。第 2 回委員会（2009.10.16）および第 3 回委員会（2010.2.19）の協議を踏まえ、発表形式・発表手順等の確認が行われ、前回同様に会場は那須烏山商工会館である。

近代化遺産の評価と活用について継続して研究を行っている足利工業大学は、前年度の研究成果の一つ“近代化遺産の教材化”をさらに進めた“学習プログラム”として提案するとともに、市内の中山間地の活性化方策として現地調査およびワークショップの成果を踏まえた資源活用プランについて発表が行われた。国際医療福祉大学は、11 月に開催された市の各種イベントを利用して実施した“協働に関する市民アンケート”の分析成果について、市職員へのアンケート結果も含めて報告が行われた。小山工業高等専門学校は、市民グループ「那須氏研究会」との共同研究として継続して取り組んでいる市と那須氏との関わり等について、現状報告が行われた。また、“夢づくりワークショップ”として実施してきた宇都宮大学（とちぎ大学連携サテライトオフィス大野邦雄コーディネータ）と市民グループ「那須烏山市女性団体連絡協議会」は、宇都宮共和大学の久保忠旦『まち研』委員長も加わり、“ワークショップで描く夢のあるまちづくり”として本年度の成果について報告が行われた。さらに、烏山和紙の原料である那須楮の栽培等の改良に関する研究を継続している宇都宮共和大学（久保委員長）の現状報告も行われた。参加者数は、82 名であった。

資料 13 に、平成 21 年度の活動成果報告会の案内チラシを示す。また、資料 14 に報告会次第、資料 15 に報告会の発表風景を示す。

《資料 13》 平成 21 年度報告会の案内チラシ

《資料 14》 平成 21 年度報告会次第

《資料 15》 報告会の発表風景



那須烏山市まちづくり研究会

入
場
無
料

研究成果報告会 を開催します！

- ◆日 時：平成 22 年 3 月 7 日(日) 午後 1 時から
- ◆場 所：那須烏山商工会館 2 階 (山あげ会館東側)

○ 研究グループの報告テーマ

- ・地域振興に向けた近代化遺産の活用に関する研究
- ・近代化遺産を活用した学習プログラム案の作成
- ・地域資源を活用した中山間地域の活性化方策の検討

【足利工業大学】

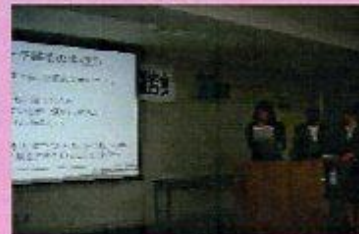


- ・『協働』による那須烏山市の地域活性化を検討する
～市民、市民団体、市職員へのアンケート結果～

【国際医療福祉大学】

- ・那須烏山市と那須氏の歴史を探る

【小山工業高等専門学校・那須氏研究会】



- ・ワークショップで描く“夢のあるまちづくり”
～市の活性化のために・STEP2～

【宇都宮共和大学・宇都宮大学・

女性団体連絡協議会等有志】


- ・烏山和紙の生産普及の支援のために
～和紙原料：那須楮の栽培を地元で

【宇都宮共和大学】

みなさまのお越しを、心よりお待ちしております。

問い合わせ先：まちづくり研究会事務局（那須烏山市役所商工観光課）TEL0287-83-1115

《資料 14》 平成 21 年度報告会次第


 は、ご参加いただきありがとうございます。
 成21年度 那須烏山市まちづくり研究会

研究 成 果 報 告 会 次 第

◆日 時：平成 22 年 3 月 7 日(日) 午後 1 時から
 ◆場 所：那須烏山商工会館 研修室

1 開 会
 2 あいさつ
 3 研究成果発表

- ◆地方中小都市における地域資源を活用した地域振興に関する基礎的研究
 ー栃木県那須烏山市の近代化遺産の活用を事例としてー
- ◆那須烏山市の近代化遺産を活用した学習プログラム案の作成
- ◆地域資源を活用した那須烏山市中山間地域の活性化方策の検討
 【足利工業大学】




◆『協働』による那須烏山市の地域活性化を検討する
 ～市民、市民団体、市職員へのアンケート結果～
 【国際医療福祉大学】

◆那須烏山市と那須氏の歴史を探る
 【小山工業高等専門学校・那須氏研究会】

◆ワークショップで描く“夢のあるまちづくり”～市の活性化のために・STEP 2～
 【宇都宮共和大学・宇都宮大学・女性団体連絡協議会等有志】

◆烏山和紙の生産普及の支援のために ～和紙原料：那須楮（ナスコウゾ）の栽培を地元で～
 【宇都宮共和大学】

4 質疑応答
 5 活動報告書について
 6 閉 会

《資料 15》 報告会の発表風景



(5) 平成 22 年度”

2010（平成 22）年度の『まち研』報告会の開催は、第 2 回委員会（2010.10.15）において開催日および会場が決議され、第 3 回委員会（2011.2.2）において開催内容の確認が行われた。その結果、成果報告会は、那須烏山商工会館を会場として 2011（平成 23）年 2 月 26 日の土曜日午後 1 時からの開催、またその内容は、『まち研』を構成する 5 大学等および市民団体の発表とともに、『まち研』事務局による当該年度の活動概要についても報告されることとなった。

報告会では、足利工業大学が“近代化遺産とまちづくり”と題して、近代化遺産の保護と活用の現状に関する分析、および土木学会が認定している選奨土木遺産について、那須烏山市の考察を中心に報告された。国際医療福祉大学は、市内の特産を活用した若者をターゲットにした新規食品を提案した。小山工業高等専門学校&那須氏研究会は、市と那須氏に係わる継続研究の成果について報告が行われた。また、「那須烏山市女性団体連絡協議会」は、空き店舗の利活用として起ち上げた市民カフェを取り上げ、“コミュニティビジネスとしての市民カフェ”と題して“夢づくりワークショップ”を開催してきた宇都宮大学（とちぎ大学連携サテライトオフィス大野邦雄コーディネータ）、宇都宮共和大学（大久保忠旦『まち研』委員長）との共同により報告が行われた。宇都宮共和大学（大久保忠旦『まち研』委員長）は、“手漉き和紙づくりを幼児・児童の環境教育に活かす”と題して報告が行われた。最後に、今報告会に初めて取り入れられた『まち研』の年間をとおしての活動記録について、事務局から報告が行われた。報告会への参加者数は、70 名であった。

資料 16 に、平成 22 年度の活動成果報告会の案内チラシを示す。また、資料 17 に報告会次第、資料 18 に報告会の発表風景を示す。

- 《資料 16》 平成 22 年度報告会の案内チラシ
- 《資料 17》 平成 22 年度報告会次第
- 《資料 18》 報告会の発表風景



那須烏山市まちづくり研究会

入
場
無
料

成果報告会

◆開催日：平成 23 年 2 月 26 日(土) 午後 1 時から

◆会場：那須烏山商工会館 2 階 (山あげ会館東側)

— 研究グループの報告テーマ —

近代化遺産とまちづくり

【足利工業大学】

那須烏山市の特産を生かした若者向け新食品の検討

【国際医療福祉大学】

那須烏山と那須氏

【小山工業高等専門学校・那須氏研究会】

コミュニティビジネスとしての市民カフェ

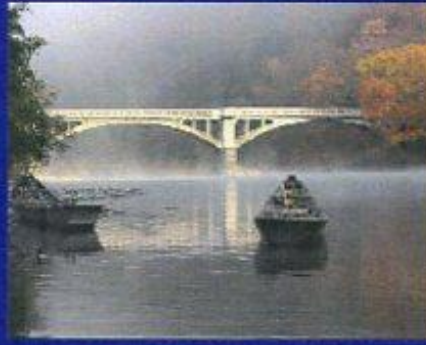
【宇都宮共和大学・宇都宮大学・女性団体連絡協議会等有志】

手漉き和紙づくりを幼児・児童の環境教育に活かす

【宇都宮共和大学】

研究会活動報告


【那須烏山市まちづくり研究会事務局】



県内の 5 大学等と市民団体による 1 年間の研究成果を発表します。お気軽におこしください。

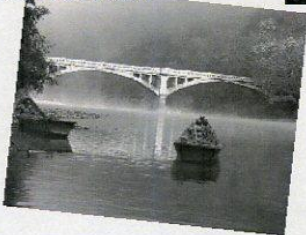

問い合わせ先：まちづくり研究会事務局（那須烏山市役所商工観光課）TEL0287-83-1115

《資料 17》 平成 22 年度報告会次第

 本日は、ご参加いただきありがとうございます。
平成22年度 那須烏山市まちづくり研究会
成果報告会 次第
◆日時：平成 23 年 2 月 26 日(土) 午後 1 時から
◆場所：那須烏山商工会館 研修室

1 開 会
2 あいさつ
3 研究成果発表
◆近代化遺産とまちづくり
【足利工業大学】
◆那須烏山市の特産を生かした若者向け新食品の検討
【国際医療福祉大学】
◆那須烏山と那須氏
【小山工業高等専門学校・那須氏研究会】
◆コミュニティビジネスとしての市民カフェ
【宇都宮共和大学・宇都宮大学・女性団体連絡協議会等有志】
◆手漉き和紙づくりを幼児・児童の環境教育に活かす
【宇都宮共和大学】
◆研究会活動報告
【那須烏山市まちづくり研究会事務局】

4 質疑応答
5 閉 会



《資料 18》 報告会の発表風景



発表の様子



報告会終了後の記念撮影

(6) 平成 23 年度

2011（平成 23）年度の『まち研』活動は、3 月 11 日に発生した未曾有の東日本大震災とそれに伴う東京電力の事故により、年度当初は大幅に縮小した活動にならざるを得ない状況であった。『まち研』の恒例事業の一つで春の風物詩として定着した「鯉のぼりまつり」は休止となったが、秋以降の事業については可能な範囲での開催が決議された。秋の恒例事業となった「近代化遺産全国一斉公開」は開催されることとなり、また、当該年度の活動成果の報告会も、第 2 回委員会（2011.11.25）および第 3 回委員会（2012.2.3）において開催が決議された。

2012 年 3 月 3 日、平成 23 年度の『まち研』成果報告会が那須烏山商工会館を会場として開催された。報告会は、本会を構成する大学等に加え、市内で活動する NPO や市民グループに幅広く参加を呼び掛けた結果、7 グループの新規参加が得られた。市民や市民グループとの協働によるまちづくりを標榜して発足した本会にとって、大きな前進となる報告会となった。また、発表形態の見直しが行われ、これまでの発表者の登壇による発表形式から、研究概要の紹介（登壇による発表）とポスターセッション（パネルによる詳細説明）の 2 部構成となった。

研究概要の紹介では、大学・市民グループとも各々 5 分間の発表が行われた。足利工業大学は、“歴史的建造物のまちづくりへの活用”と題して、土木学会選奨土木遺産の一つ『東京動力機械製造(株)地下工場跡（どうくつ酒蔵）』のまちづくりへの活用の際し、その使用にあたって“地下空間としての安全性”について調査分析した結果が報告された。なお、この第 1 回目の調査が行われた 4 月 11 日は、東日本大震災後の最大余震が発生した日であり、地下空間施設内での遭遇の驚嘆・脅威・恐怖についても報告が行われた。国際医療福祉大学は『まち研』事務局との協働により、若者を市内に呼び込むための取り組みについて報告された。ワークショップをとおして“地域の夢づくり”に取り組んでいる市女性団体連絡協議会を中心とした市民グループと宇都宮大学（とちぎ大学連携サテライトオフィス大野邦雄コーディネータ）・宇都宮共和大学（大久保忠旦『まち研』委員長）は、年間活動の成果について、宇都宮共和大学（大久保忠旦『まち研』委員長）は、手漉き和紙の原料栽培に関する継続研究の成果について報告が行われた。

また、今回から新たにスタートした市民グループによる活動紹介が行われた。「栃木県消費者リーダー連絡協議会那須烏山支部」、「NPO 法人てとてとて」、「ゲンキーズ陸上競技」、「NPO 法人那珂川流域悠遊会」、「NPO 法人野うさぎくらぶ」、「石ヶ入りの自然を愛する会」、「いきいきライフ積翠塾」、「那須氏研究会」による活動紹介が行われた。

第 2 部のポスターセッションでは、活動内容およびその成果がまとめられたパネルを用いて、参加した大学および市民グループによりその詳細が報告された。参加者数は、70 名であった。

資料 19 に平成 23 年度の活動成果報告会の案内チラシ、資料 20 に報告会次第を示す。また、資料 21 にポスターセッションの配置を記した会場案内図を、資料 22 に報告会の発表風景を示す。

- 《資料 19》 平成 23 年度報告会の案内チラシ
- 《資料 20》 平成 23 年度報告会次第
- 《資料 21》 ポスター配置と会場案内図
- 《資料 22》 報告会の発表風景



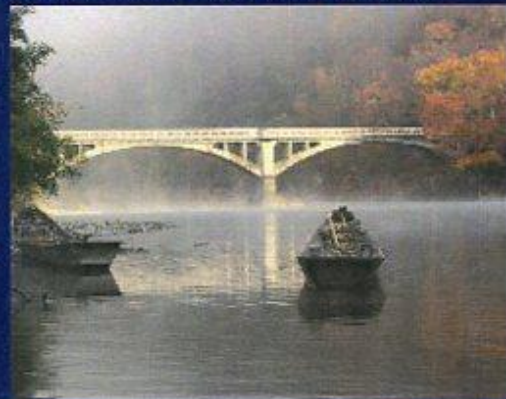
那須烏山市まちづくり研究会

成果報告会

◆開催日：平成 24 年 3 月 3 日(土) 午後 1 時から午後 4 時 ◆会場：那須烏山商工会館 2 階

◆スケジュール：①開会式・研究概要紹介 午後 1 時（研究概要を各グループ 5 分程度で発表します）
②ポスターセッション 午後 2 時頃から（ポスター・パネル展示と説明により研究・活動を報告します）

県内 5 つの大学の研究報告のほか、那須烏山市内で活動するボランティア・NPO など市民団体の多彩な活動紹介です。入場無料です。研究成果に興味のある方はもちろんのこと、市民団体と情報交換してみたい方や市民活動をしてみたい方などお気軽にご来場ください。



— 研究報告のテーマ —

歴史的建造物のまちづくりへの活用【足利工業大学】

国際医療福祉大学と那須烏山市まちづくり研究会
～若者の視線を那須烏山市に向けるために～【国際医療福祉大学】

夢のあるまちづくりワークショップの活動報告
【宇都宮共和大学・宇都宮大学/作新学院大学・ワークショップグループ】

環境教育素材としての手漉き和紙づくり～原料栽培から紙漉きまで【宇都宮共和大学】

消費者リーダー活動報告【栃木県消費者リーダー連絡協議会那須烏山支部】

「ゆったりや」ふれあい活動【NPO 法人とてとて】

ゲンキーズのマスターズ陸上競技出場の結果【ゲンキーズ陸上競技】

悠遊会 平成 23 年度事業報告【NPO 法人那珂川流域悠遊会】


子育て応援団【NPO 法人野うさぎくらぶ】

自然の郷 石ヶ入りの環境整備【石ヶ入りの自然を愛する会】

烏山城主の変遷と烏山【いきいきライフ積草塾・那須氏研究会】

問い合わせ先：那須烏山市まちづくり研究会事務局（那須烏山市役所商工観光課） ☎0287-83-1115

《資料 20》 平成 23 年度報告会次第



今日は、ご参加いただきありがとうございます。

平成23年度 那須烏山市まちづくり研究会

成果報告会 次第

◆日時：平成 24 年 3 月 3 日(土) 午後 1 時から

◆場所：那須烏山商工会館 研修室

1 開会

2 あいさつ

3 研究成果発表

①研究概要紹介 (各グループ5分間の報告)

- ◆歴史的建造物のまちづくりへの活用【足利工業大学】
- ◆国際医療福祉大学と那須烏山市まちづくり研究会
～若者の視線を那須烏山市に向けてのために～【国際医療福祉大学】
- ◆夢のあるまちづくりワークショップの活動報告
【宇都宮共和国・宇都宮大学/作新学院大学・ワークショップグループ】
- ◆環境教育素材としての手漉き和紙づくり～原料栽培から紙漉きまで宇都宮共和国
- ◆消費者リーダー活動報告【栃木県消費者リーダー連絡協議会那須烏山支部】
- ◆「ゆったりや」ふれあい活動【NPO法人てとてとて】
- ◆ゲンキーズのマスターズ陸上競技出場の結果【ゲンキーズ陸上競技】
- ◆悠遊会 平成23年度事業報告【NPO法人那珂川流域悠遊会】
- ◆子育て応援団【NPO法人野うさぎくらぶ】
- ◆自然の郷 石ヶ入りの環境整備【石ヶ入りの自然を愛する会】
- ◆烏山城主の変遷と烏山【いきいきライフ積翠塾・那須氏研究会】


(休憩 10分間)

②ポスターセッション
各研究テーマごとパネルなどをもとに説明します。
参加いただいた皆様を、いくつかのグループに分けひととおりご案内します。

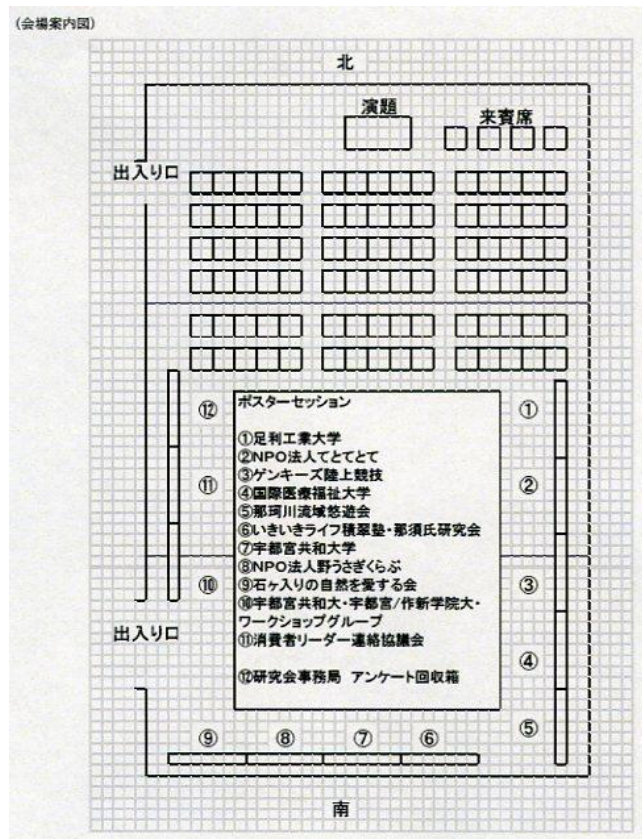
あなたは A グループです

各グループの展示場所は裏面の会場案内図をご覧ください。

4 閉会



《資料 21》 ポスター配置と会場案内図



《資料 22》 報告会の発表風景



研究概要紹介の様子



ポスターセッションの様子
(NPO 法人てとてとて)



ポスターセッションの様子
(国際医療福祉大学)

(7) 平成 24 年度

2012（平成 24）年度の『まち研』活動の報告会は、第 2 回委員会（2012.10.16）ならびに第 3 回委員会（2013.1.22）において協議された。その結果、2013 年 3 月 2 日（土）午後 1 時から那須烏山商工会館を会場として開催されることとなった。前年度の報告会から市民グループの発表を組み入れたその形態は継承され、概要紹介とポスターセッションの 2 部構成も引き続き採用された。

第 1 部の各大学・グループによる概要紹介では、足利工業大学は、“那須烏山市の近代化遺産を活用したまちづくり”と題して、「NPO 法人野うさぎくらぶ」との協働で行われた地元児童を対象とした学習会&見学会の紹介とその成果、近代化遺産を保護するための仕組みづくりについて報告が行われた。国際医療福祉大学は、『まち研』事務局との協働により開催した“カラコン”の紹介、およびマーケティングを応用したデマンド交通・烏山和紙を題材にしたまちづくり活動について報告された。市民ワークショップグループと宇都宮共和大学（大久保『まち研』委員長）は、市民の憩いの場として定着し軌道に乗った市民カフェについて報告が行われた。今回から新たに『まち研』に参画した宇都宮共和大学の内藤英二教授は、ゼミ生の指導の成果として“バイクツーリング情報を題材にした観光による活性化方策”について報告が行われた。

また、前年度報告会から取り入れた市民グループの発表として、今年度は「NPO 法人野うさぎくらぶ」が協働の重要性について、「石ヶ入りの自然を愛する会」が自然の復元に向けた活動紹介、「いきいきライフ積翠塾」・「烏山那須氏研究会」が地域振興に向けた提案について各々報告された。

第 2 部として、ポスターセッションが行われた。ポスターセッションでは、各大学および市民グループが活動成果をまとめたパネルを使って、より詳細な報告が行われた。成果報告会の参加者数は、80 名であった。

資料 23 に、平成 24 年度の活動成果報告会の案内チラシ、資料 24 に報告会次第を示す。また、資料 25 にポスターセッションの配置を記した会場案内図を、資料 26 に報告会の発表風景を示す。

《資料 23》 平成 24 年度報告会の案内チラシ

《資料 24》 平成 24 年度報告会次第

《資料 25》 ポスター配置と会場案内図

《資料 26》 報告会の発表風景

那須烏山市 まちづくり研究会 成果報告会

参加者には、
市民カフェ自慢の
コーヒー1杯を無料
でサービスします




県内大学の研究報告のほか、市内で活動するボランティア・NPOなど市民団体の活動紹介です。研究成果に興味のある方、市民団体と情報交換をしてみたい方、市民活動をやってみたい方など、お気軽にご来場ください。

- 開催日 平成25年3月2日(土)
午後1時～ 開会式・研究概要紹介
(研究概要を各グループ5分程度で発表します)
午後2時頃～ ポスターセッション
(ポスター・パネル展示と説明により研究・活動を報告します)
- 場 所 那須烏山商工会館2階 研修室
(那須烏山市金井2-5-11 山あげ会館隣)
- 入場無料・事前申込不要
- 研究報告のテーマ
 - *那須烏山市の近代化遺産を活用したまちづくりへの取組み【足利工業大学】
 - *マーケティングを応用したまちづくり活動3題
～デマンド交通、烏山和紙、街コンとしての「カラコン」～
【国際医療福祉大学】
 - *市民カフェ憩いの場【宇都宮共和大学・ワークショップグループ共同研究】
 - *バイクツーリング情報提供ホームページを活用した栃木県内観光案内による
活性化【宇都宮共和大学】
 - *みんなからの風 ～協働が教えてくれたこと～【NPO法人 野うさぎくらぶ】
 - *石ヶ入りの自然復元活動について【石ヶ入りの自然を愛する会】
 - *地域活性、振興のために今取り上げたい10案件
【いきいきライフ積翠塾・烏山那須氏研究会】



【問合せ】那須烏山市まちづくり研究会事務局(那須烏山市役所商工観光課) ☎0287-83-1115

《資料 24》 平成 24 年度報告会次第



今日は、ご参加いただきありがとうございます。

平成24年度 那須烏山市まちづくり研究会

成果報告会 次第

◆日時：平成 25 年 3 月 2 日(土) 午後 1 時から

◆場所：那須烏山商工会館 研修室

1 開 会

2 あいさつ

3 研究成果発表

①研究概要紹介

◆那須烏山市の近代化遺産を活用したまちづくりへの取組【足利工業大学】

◆マーケティングを応用したまちづくり活動3題
～デマンド交通、烏山和紙、街コンとしての「カラコン」～【国際医療福祉大学】

◆バイクツーリング情報提供ホームページを活用した栃木県内観光案内による活性化【宇都宮共和大学】

◆石ヶ入りの自然復元活動について【石ヶ入りの自然を愛する会】

◆地域活性、振興のために今取り上げたい10案件【いきいきライフ積翠塾・烏山那須氏研究会】

(ポスターセッションのみの団体)

◆みんなからの風～協働が教えてくれたこと～【NPO法人野うさぎくらぶ】

◆市民カフェ憩いの場【宇都宮共和大学・ワークショップグループ】


(休憩 15 分間)

②ポスターセッション

各研究テーマごとパネルなどをもとに説明します。
参加いただいた皆様を、いくつかのグループに分けひととおりご案内します。

あなたは A グループです

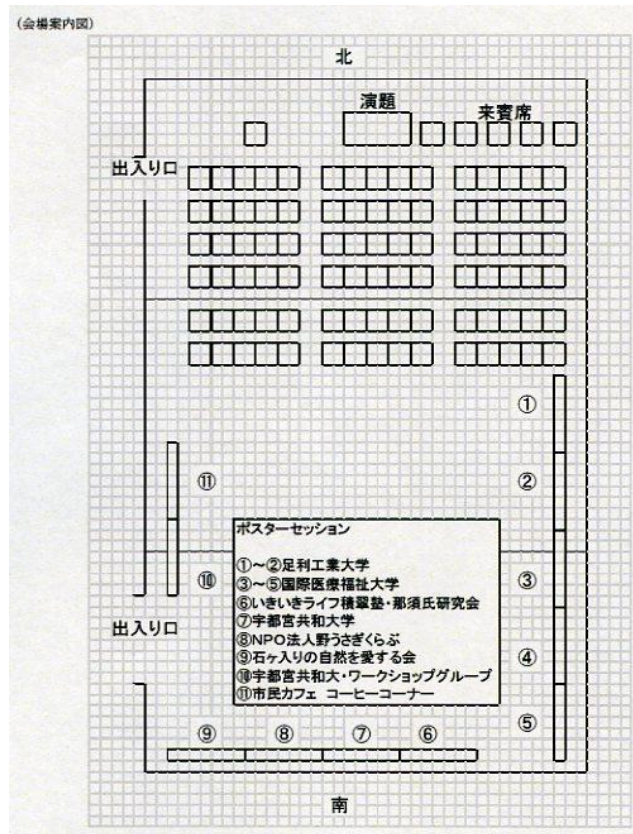
各グループの展示場所は裏面の会場案内図をご覧ください。



4 閉 会

コーヒー
引換券
1杯無料サービス
H25.3.2

《資料 25》 ポスター配置と会場案内図



《資料 26》 報告会の発表風景



ベトナムでのポスター事前掲示



宇都宮共和大学



研究概要紹介の様子



市民カフェによるコーヒーサービス



ポスターセッションの様子



報告会終了後の記念撮影

(8) 平成 25 年度

2013（平成 25）年度の『まち研』活動の報告会は、第 2 回委員会（2013.9.5）ならびに第 3 回委員会（2013.12.25）において協議された。その結果、2014 年 3 月 1 日（土）午後 1 時から那須烏山商工会館を会場として開催されることとなった。一昨年度から始めた市民グループの参加と発表、および概要紹介とポスターセッションの 2 部構成による発表形態も踏襲された。

報告会は、午後 0 時 30 分に受付を開始し、午後 1 時から開会式、その後 1 部の概要紹介として各大学・グループ各 10 分の発表が行われた。

足利工業大学は、『まち研』発足以来取り組んでいる近代化遺産の活用に関する研究として、市の近代化遺産を代表する“境橋”と“東京動力機械製造(株)地下工場跡（どうくつ酒蔵）”を取り上げ、その活用に向けた活動とその成果について報告が行われた。“境橋”はその設計者である成瀬勝武の業績を掘下げその情報を活用した遺産啓発について、また、“東京動力機械製造(株)地下工場跡”は具体的な公開企画案が提示された。国際医療福祉大学は、市で活動している「NPO 法人野うさぎくらぶ」の協力によって実施された市内児童を対象とした“心のバリアフリー教育プログラム”について報告が行われた。この取り組みは、7 月 9 日に行われたプログラムの開発打合せに始まり、8 月～11 月にかけて取り組みが行われた成果として報告されたものである。宇都宮共和大学は、宇都宮シティキャンパスの建物を利用した大型路上広告の実験効果についての報告と、また、市民ワークショップグループとともに取り組んだ市内循環バスと JR 烏山線へのラッピング計画の提案について報告が行われた。白鷗大学は、“地域活性化とネットワーク”と題した研究概要が紹介された。今回から『まち研』に参画した栃木県立烏山高等学校は、“烏山高校生が考えるまちづくり”と題して、地域特産の資源等を活用した地域活性化に向けた報告が行われた。より身近な資源を題材にした地元高校生ならではの澁刺とした発表に、訪れた多くの市民から惜しめない拍手が送られた。また、市民グループでは、「NPO 法人野うさぎくらぶ」が“地域のつながり”、「ゲンキーズ陸上競技」は陸上競技に係わる活動報告、「NPO 法人那珂川悠遊会」は那珂川を利用して取り組んでいる川下りについての報告、「歌えバンバン」は“市民に広げよう～歌の輪、まずは、おばちゃま達から♪”と題してその取り組みについて報告が行われた。

研究紹介が終了後、2 部として、各々のテーマをまとめたパネルにより、ポスターセッションが行われた。「市民カフェのグループ」と「街に賑わいを興す会」はポスターセッションで発表 & 参加があった。報告会への参加者は、90 名であった。

資料 27 に、平成 25 年度の活動成果報告会の案内チラシの表面、資料 28 に発表テーマをまとめた同チラシ裏面、資料 29 に報告会次第（表面）と当日の発表テーマ（裏面）を示す。また、資料 30 にポスターセッションの配置を記した会場案内図を、さらに、資料 31 に報告会の発表風景を示す。

- 《資料 27》 平成 25 年度報告会の案内チラシ（表面）
- 《資料 28》 平成 25 年度報告会の案内チラシ（裏面）
- 《資料 29》 報告会次第の表 & 裏面
- 《資料 30》 ポスター配置と会場案内図
- 《資料 31》 報告会の発表風景

那須烏山市
まちづくり研究会
成果報告会

参加者には、
市民カフェ自慢の
コーヒー1杯を無料
でサービスします

県内4大学、鳥山高校の研究報告のほか、市内で活動するボランティア・NPOなど市民団体の活動紹介です。研究成果に興味のある方、市民団体と情報交換をしてみたい方、市民活動をやってみたい方など、お気軽にご来場ください。

■開催日 平成26年3月1日(土)
午後0時30分～ 受付開始
午後1時～ 開会式・研究概要紹介
(研究概要を各グループ10分以内で発表します)
午後2時50分頃～ ポスターセッション
(ポスター・パネル展示と説明により研究・活動を報告します)

■場 所 那須烏山商工会館2階 研修室
(那須烏山市金井2-5-11 山あげ会館隣)

■入場無料・事前申込不要

■研究報告のテーマは、裏面をご覧ください。

【問合せ】那須烏山市まちづくり研究会事務局 (那須烏山市役所商工観光課) ☎0287-83-1115

■発表団体 及び 発表テーマ

足利工業大学

「地下空間に存する戦争遺産の活用に向けた検討～那須烏山市の旧戦車工場を事例として～」
「土木遺産の啓発に向けた技術者情報の活用について～成瀬勝武と「境橋」を事例として～」

国際医療福祉大学

「那須烏山市の小学生を対象とした心のバリアフリー教育プログラムの開発」

宇都宮共和大学

「近代化遺産見学会のための大型路上広告の効果測定について」
「那須烏山市内循環バスとJR烏山線へのラッピング計画の提案」※ワークショップ共同研究

* 白鷺大学

「地域活性化とネットワーク」 ※研究概要紹介のみ
「コミュニティ・ビジネスの意義」 ※ポスターセッションのみ

* 烏山高等学校

「烏山高校生が考えるまちづくり」

* まちづくり研究会ワークショップ・宇都宮共和大学共同研究

「市民カフェの立上げから現在まで」 ※ポスターセッションのみ

* NPO法人 野うさぎくらぶ

「地域のつながり」

* 街に賑わいを興す会

「街に賑わいを興す会の実施状況」 ※ポスターセッションのみ

* ゲンキーズ陸上競技

「競技種目と競技の内容(方法)と活動報告」


* NPO法人 那珂川流域悠遊会

「那珂川下り」

* 歌えバンバン

「市民に広げよう～歌の～輪、まずは、おばちゃま達から♪」

《資料 29》 報告会次第の表&裏面



今日は、ご参加いただきありがとうございます。

平成25年度 那須烏山市まちづくり研究会

成果報告会 次第

◆日時：平成26年3月1日(土) 午後1時から

◆場所：那須烏山商工会館 研修室

1 開会

2 あいさつ

3 研究成果発表

①研究概要紹介
発表団体及び発表テーマは、裏面をご覧ください。

(休憩 10分間)

②ポスターセッション
各研究テーマごとパネルなどをとくに説明します。
参加いただいた皆様を、いくつかのグループに分けひととおりご案内します。

あなたは E グループです

各研究テーマの展示場所は、別紙会場案内図をご覧ください。

4 閉会

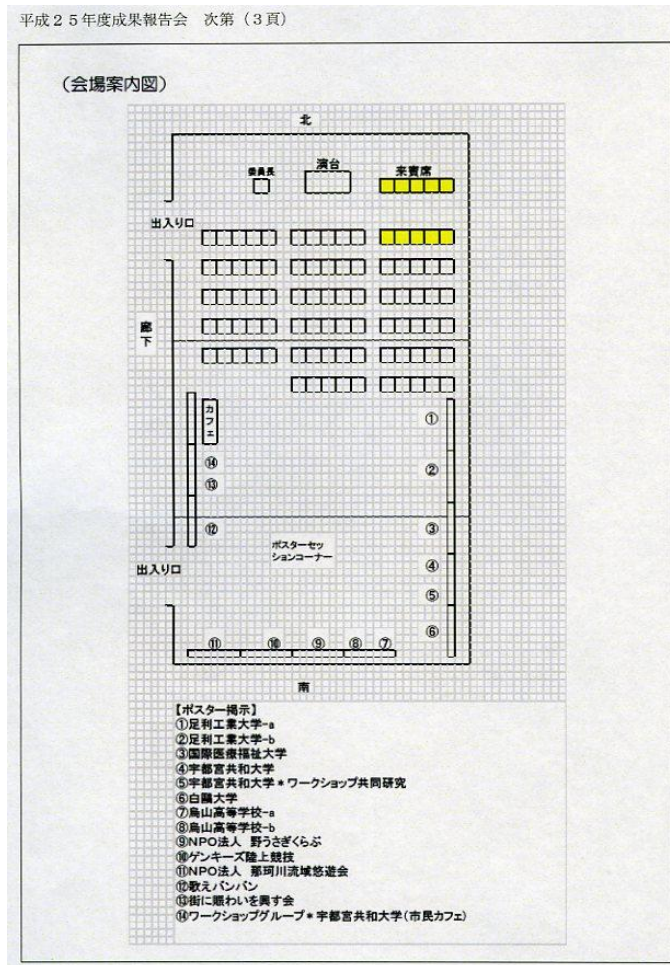
コーヒー
引換券
1枚無料サービス
H26、3、1

平成25年度成果報告会 次第 (2頁)

▶ 発表団体 及び 発表テーマ

- 足利工業大学
「地下空間に存する戦争遺産の活用に向けた検討 ～那須烏山市の旧戦車工場を事例として～」
「土木遺産の啓発に向けた技術者情報の活用について ～成瀬勝武と「境塚」を事例として～」
- 国際医療福祉大学
「那須烏山市の小学生を対象とした心のバリアフリー教育プログラムの開発」
- 宇都宮共和大学
「近代化遺産見学会のための大型路上広告の効果測定について」
「那須烏山市内循環バスとJR烏山線へのラッピング計画の提案」※ワークショップ共同研究
- 白鷺大学
「地域活性化とネットワーク」 ※研究概要紹介のみ
「コミュニティ・ビジネスの意義」 ※ポスターセッションのみ
- 烏山高等学校
「烏山高校生が考えるまちづくり」
- まちづくり研究会ワークショップ・宇都宮共和大学共同研究
「市民カフェの立上げから現在まで」 ※ポスターセッションのみ
- NPO 法人 野うさぎくらぶ
「地域のつながり」
- 街に賑わいを興す会
「街に賑わいを興す会の実施状況」 ※ポスターセッションのみ
- グンキーズ陸上競技
「競技種目と競技の内容(方法)と活動報告」
- NPO 法人 那珂川流域悠遊会
「那珂川下り」
- 歌え/バンバン
「市民に広げよう～歌の～輪、まずは、おばちゃま達から♪」

《資料 30》 ポスター配置と会場案内図



《資料 31》 報告会の発表風景



研究概要紹介の様子(足利工業大学)



ラッピングバスの展示



研究概要紹介の様子
(烏山高校)



研究概要紹介の様子
(NPO 法人那珂川流域悠遊会)



ポスターセッションの様子
(街に賑わいを興す会)



ポスターセッションの様子
(ゲンキーズ陸上競技)



ポスターセッションの様子
(歌えバンバン)



報告会終了後の記念撮影

(4) そのほかの取り組み

福島 二郎・事務局

1. フォト・コンテストの開催

本会が発足した 2006 年度の活動の一つとして、会を構成する足利工業大学福島研究室から事務局に、フォト・コンテスト開催について相談があった。相談の主旨は、市内外に向けた『まち研』の発足とその存在の周知を一義的な目的とした早い時期における取り組みの必要性を唱えたものであり、加えて、イベント性を有した取り組みを開催する中で、市の魅力の表出を念頭においた催しを提案したものである。

フォト・コンテストの具体的な目的は、事務局に提出された企画書やフォト・コンテストの開催要項などに記載されており、整理すると概ね以下のとおりである。

①当該地域に居住する市民が、何を地域の魅力として捉えているかの把握

②当該地域以外の方々にとって、“からすやま”の魅力をどのように捉えているかの把握

さらに、福島研究室が 7 月～9 月にかけて実施した市の中山間地・国見地区の調査を踏まえ、

③国見地区が有する、その自然が織りなす景観の美しさの発信と来訪機会の創出である。

このような狙いを具体化するため数次にわたる検討会を踏まえ、2006 年 10 月 15 日に『残したい風景～からすやまフォト・コンテスト』が開催されることとなった。主催者は、『那須烏山市まちづくり研究会』・『那須烏山市』および『烏山商工会』、後援団体として『JA 那須南農業協同組合』に加わってもらうこととなった。また、初めての開催であり、且つ作品の募集期間も短いことから、10 月 15 日は出品者、市民をはじめとする内外からの参加者および主催者による“フォト・コンテストを媒体とした交流・交歓会”に主眼をおき、国見地区の長峰ビジターセンターを会場に、豊かな自然景観が息づく里山環境を堪能してもらうこととした。会場では、全応募作品の展示とレセプションとして交流イベントを開催するとともに、郷愁を誘う“棚田のはさがけ”や“オープン間近のみかん園”の鑑賞、地元市民の手作り「すいとん」のおもてなし等が行われた。また、入賞者・入賞作品は、10 月 30 日に市役所烏山庁舎第 1 会議室で開催された審査会を経て公表され、表彰式は 11 月 24 日の『まち研』活動報告会の中で行われた。賞品・入賞作品・受賞者等は以下のとおりである。

■委員長賞 (1 点)、賞金 5 万円、『涼を求めて』長谷川静江氏 (那須烏山市)

■市長賞 (1 点)、賞金 3 万円、『祭列』田中睦子氏 (宇都宮市)

■商工会長賞 (1 点)、賞金 3 万円、『初夏の花立峠』大野和三氏 (那須烏山市)

■JA 組合長賞 (1 点)、こしひかり 1 年分、『冬的那珂川』栗田昊志氏 (那須烏山市)

■佳作 (5 点)、商品券 3 千円、『祭を裏側から見ると』舟木肇氏 (宇都宮市)

『ヒガン花と棚田』柚木光明氏 (市貝町)

『霧の里』原沢和幸氏 (那須烏山市)

『涼を求めて』佐海忠夫氏 (真岡市)

『宮原の境橋』山本文怡氏 (那須烏山市)

■応募作品：93点

資料1に、開催要項を示す。また、資料2に入賞作品を示す。

《資料1》『第1回 残したい風景～からすやまフォト・コンテスト』開催要項

《資料2》第1回入賞作品

《資料1》『第1回 残したい風景～からすやまフォト・コンテスト』開催要項

残したい風景～からすやまフォトコンテスト
開催のご案内

栃木県内にある宇都宮大学・宇都宮共栄大学・作新学院大学・足利工業大学・国際医療福祉大学の5大学が平成18年7月14日に「那須烏山市まちづくり研究会」を設立し、からすやまの自然、歴史、文化など豊かな資源を活かした地域づくりに、市、商工会、市民が協働して様々な活動を展開しています。

今回、地域づくり活動の一つとして「残したい風景～からすやまフォトコンテスト」を次の要領により開催します。忘れられつつある里山の原風景や風情ある街並みなどを写真に撮り、是非ご家族で「感動と郷愁の世界」に触れてみてはいかがでしょうか。皆様のご応募、ご参加をお待ちしております。

◇主催 那須烏山市まちづくり研究会・那須烏山市・烏山商工会
◇後援 JA那須南農業協同組合
◇開催日時 平成18年10月15日(日) 11:00～15:00
* 応募者(出品者)以外の方でもご参加できます。
◇開催場所 長峰ビジターセンター
栃木県那須烏山市小原沢1020番地4
TEL 0287-82-0151

◇応募要領
(1)資格 どなたでも応募できます。
(2)対象 烏山地区の風景・建造物・伝統行事など、地区の魅力を描き起こしてください。
(3)作品部門 ①風景の部(一般の部、高校生の部、小中学生の部)
②建造物の部(一般の部、高校生の部、小中学生の部)
(4)応募規定 ①四つ切りサイズのカラープリント
②入賞作品の著作権は主催者に属します。
③入賞は原則として1人1賞とします。
④被写体の肖像権については責任を負いません。
(人物が含まれている場合は被写体の人物に承諾を得て応募してください)
⑤原則として作品は返却しません。
(5)応募方法 応募票に必要事項(タイトル・住所・氏名・年齢または学年・電話番号・撮影年月日・撮影場所)を記入し、作品と一緒に郵送または直接下記事務局へ提出してください。
〒321-0692
栃木県那須烏山市中央1-1-1
那須烏山市まちづくり研究会事務局
(那須烏山市商工観光課内 TEL 0287-83-1115)

(7) 応募締切り 平成18年10月13日(金) 午後5時まで
* なお、デジカメに限り開催当日写真撮影し、午前11時までに受付が済まれた方、また、応募作品を当日持参された方も有効です。
10月下旬頃、直接本人あて通知します。

(8) 審査発表
(9) 賞
委員長賞 1点 賞金 50,000円
市長賞 1点 賞金 30,000円
商工会長賞 1点 賞金 30,000円
JA組合長賞 1点 那須烏山産コシヒカリ1年分
佳作 5点 商品券 3,000円相当分

* 賞は、風景の部・建造物の部2部門合わせた賞となります。
* 入賞通知を受けた方は原版(ネガ又はデータ)をご提出ください。原版は返却しません。期限までに提出のない場合は入賞を取り消すこともあります。
* 入賞作品の中から主催者が作成するパンフレットに使用させていただきます。

◇当日のレセプション
○11:00～15:00 「国見の棚田」散策・撮影会
* 棚田のはさがけ、たわわに実ったオープン間近のみかん園がご覧になれます。
○12:00～13:00 昼食会・地元農産物の直売(長峰ビジターセンター前広場)
* 昼食は、地元市民の手作り「すいとん汁」無料コーナーをご用意しています。(限定200食を予定しています。各自おにぎりなどをご用意ください。)
○13:00～15:00 応募作品の展覧会・交流会(会場:長峰ビジターセンター)
* すべての作品を展示します。
* 参加者との意見交換や主催者の情報提供など交流を図ります。
* 当日、入賞作品の発表は行いません。

「残したい風景～からすやまフォトコンテスト」応募票

作品部門	風景・建造物の部(どちらかを○で囲ってください)		
タイトル			
氏名	年齢	歳(小・中・高 年生)	
撮影地	那須烏山市	撮影年月日	年 月 日
住所	〒		
TEL	自宅	(日中連絡先)	
当日の参加	1. 参加する 2. 参加しない (どちらかを○で囲ってください)		

《資料2》第1回入賞作品



委員長賞『涼を求めて』



市長賞『祭列』



商工会長賞『初夏の花立峠』



JA 組合長賞『冬の那珂川』



佳作『祭を裏側から見ると』



佳作『ヒガン花と棚田』



佳作『霧の里』



佳作『涼を求めて』



佳作『宮原の境橋』

第1回フォト・コンテストの反響の大きさ、地域の魅力の掘り起こし等、発足して間もない『まち研』活動にとって大きな成果が得られたことを踏まえ、第2回フォト・コンテストが翌2007年度に開催されることになった。第2回は、募集期間を大幅に延長し、〆切を2008年2月10日に設定した。県外からの応募も含め前回は大幅に上回る136点の応募が寄せられ、2月22日に市役所烏山庁舎第2会議室を会場に審査会が開催された。なお、今回は応募件数が大幅に増えたことを踏まえ、佳作を3点増やし8点とした。入賞作品等は以下のとおりである。

■委員長賞（1点）、賞金5万円、『真剣に手すき和紙をつくる子供たち』

富永明氏（宇都宮市）

■市長賞（1点）、賞金3万円、『棚田に遊ぶ』大坪満氏（千葉県柏市）

■商工会長賞（1点）、賞金3万円、『山あげ祭り』江川多嘉氏（宇都宮市）

■JA組合長賞（1点）、こしひかり1年分、『晩秋の境橋』荻原隆二氏（高根沢町）

■佳作（8点）、商品券3千円、『棚田の秋景』渡辺実（小山市）

『空からの展望』山村正史氏（市貝町）

『滝から見上げた烏山線』山中富夫氏（宇都宮市）

『メルヘンワールド』大野和三（那須烏山市）

『彩の烏山大橋』津吹信一氏（鹿沼市）

『梅花咲く頃』柚木光明氏（市貝町）

『老舗散策』佐川栄治氏（那須塩原市）

『雪の中の境橋』小松原千穂氏（那須烏山市）

■応募作品：136点

資料3に第2回開催要項を、また、資料4に入賞作品を示す。

≪資料3≫『第2回 残したい風景～からすやまフォト・コンテスト』開催要項

≪資料4≫第2回入賞作品

《資料3》『第2回 残したい風景～からすやまフォト・コンテスト』開催要項

第2回 残したい風景～からすやまフォトコンテスト～

◆開催のご案内◆

那須烏山市のまちづくり活動の一環として、昨年度「第1回 残したい風景～からすやまフォトコンテスト～」を開催いたしました。忘れられつつある里山の原風景や風情あるまち並みなど、旧烏山町地区の豊かな自然や歴史などをあらためて見直すきっかけとなりました。そこで、今般、「第2回 残したい風景～からすやまフォトコンテスト～」を下記の要領により実施いたします。皆様からの多数のご応募をお待ちしております。

◇主催 那須烏山市まちづくり研究会・那須烏山市・烏山商工会
 ◇後援 JA那須南農業協同組合

◇応募要領

(1)資格 特にありません。どなたでも応募できます。
 (2)対象 烏山地区の風景・建造物・伝統行事など、地区の魅力を掘り起こしてください。
 (3)作品部門 ①風景の部(一般の部、高校生の部、小中学生の部)
 ②建造物の部(一般の部、高校生の部、小中学生の部)
 (4)賞

委員長賞	1点	賞金50,000円
市長賞	1点	賞金30,000円
商工会長賞	1点	賞金30,000円
JA組合長賞	1点	那須烏山産コンヒカリ1年分
佳作	5点	商品券3,000円相当分

※入賞通知を受けた方は原版(ネガまたはデータ)をご提出ください。原版は返却しません。期限までに提出のない場合は入賞を取り消すこともありますのでご了承ください。

(5)応募規定 ①四つ切りサイズのカラープリント。
 ②入賞作品の著作権は主催者に属します。
 ③入賞は原則として一人一賞とします。
 ④被写体の肖像権については責任を負いかねます。
 (人物が含まれている写真はその人物に承諾を得てご応募ください。)

(6)応募方法 応募票に必要事項(タイトル・住所・氏名・年齢または学年・電話番号・撮影年月日・撮影場所)を記入し、作品と一緒に郵送または直接下記事務局へ提出してください。

(7)申込先 〒321-0692 栃木県那須烏山市中央1-1-1
 那須烏山市まちづくり研究会事務局
 (那須烏山市商工観光課内 ☎:0287-83-1115)

(8)応募締切 平成20年2月10日(日)

(9)審査発表 2月中旬。直接本人宛て通知します。

◇備考 2月下旬頃に表彰式および作品展示会を開催いたします。詳しくは、下野新聞・那須烏山タイムズおよび市ホームページにてご案内いたします。

《資料4》第2回入賞作品



市長賞 『棚田に遊ぶ』

委員長賞 『真剣に手すき和紙をつくる子供たち』



商工会長賞『山あげ祭り』



JA 組合長賞『晩秋の境橋』



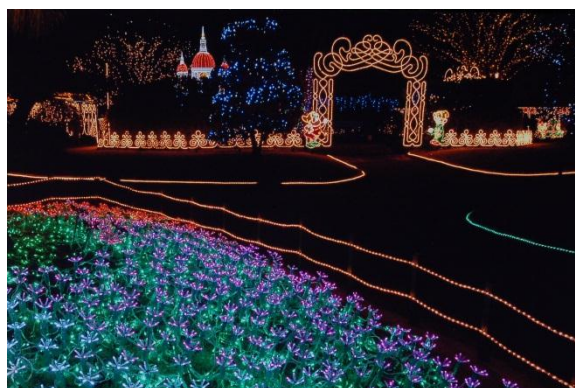
佳作『棚田の秋景』



佳作『空からの展望』



佳作『滝から見上げた烏山線』



佳作『メルヘンワールド』



佳作『彩の烏山大橋』



佳作『梅花咲く頃』



佳作『老舗散策』



佳作『雪の中の境橋』

また、翌 2008 年度の『まち研』事業として、第 3 回フォト・コンテストが引き続き開催された。応募〆切は 2009 年 2 月 10 日で前回と同様の日程で行われたが、応募件数は 43 点と大きく減少した。間髪をおかない開催と他市との競合等がその要因と思われる。3 回開催されたフォト・コンテストに寄せられた作品は 272 点であり、この件数はそのまま“からすやまの魅力”である。フォト・コンテストの開催は狙い以上の収穫と成果が得られたことを踏まえ、委員会では今回を持って本事業をひとまず終了することを決めた。

なお、フォト・コンテストの入賞作品は那須烏山市に帰属し、その後、市が刊行するパンフレット等に使用された。

最後の開催となった第 3 回フォト・コンテストの入賞作品等は以下のとおりである。

- 委員長賞（1 点）、賞金 5 万円、『棚田の風』清水やす子氏（さくら市）
- 市長賞（1 点）、賞金 3 万円、『荒川紀行』長谷川秀臣氏（那須烏山市）
- 商工会長賞（1 点）、賞金 3 万円、『冬の朝陽』野川健一氏（宇都宮市）
- JA 組合長賞（1 点）、こしひかり 1 年分、『朝もやの棚田』千葉一儀氏（那珂川町）
- 佳作（5 点）、商品券 3 千円、『秋の大銀杏』櫻岡進（大田原市）
『秋の遠足』矢野健一郎氏（日光市）
『雪残るイルミネーション』野川広子氏（宇都宮市）
『躍動する少女たち』舟木肇氏（宇都宮市）
『郷土の明かり』岡典子氏（那珂川町）

■応募作品：43 点

資料5に、第3回開催要項を示す。また、資料6に入賞作品を示す。

《資料5》『第3回 残したい風景～からすやまフォト・コンテスト』開催要項

《資料6》 第3回入賞作品

《資料5》『第3回 残したい風景～からすやまフォト・コンテスト』開催要項

第3回 残したい風景～からすやまフォトコンテスト～

◆開催のご案内◆

那須烏山市のまちづくり活動の一環として、平成18年度より「残したい風景～からすやまフォトコンテスト～」を開催しています。伝統ある文化・芸術、風情あるまち並みや忘れられつつある里山の原風景など、那須烏山市の魅力・観光資源を題材としたフォトコンテストを実施いたします。多数のみなさまのご応募をお待ちいたします。

◇主 催 那須烏山市まちづくり研究会・那須烏山市・那須烏山市商工会
◇後 援 JA那須南農業協同組合

◇応募要領

(1)資 格 特にありません。どなたでも応募できます。

(2)対 象 那須烏山市の風景・建造物・伝統行事など、地区の魅力を掘り起こしてください。

(3)作品部門 ①風景の部(一般の部、高校生の部、小中学生の部)
②建造物の部(一般の部、高校生の部、小中学生の部)

(4)賞

委員長賞	1点	賞金50,000円
市長賞	1点	賞金30,000円
商工会長賞	1点	賞金30,000円
JA組合長賞	1点	那須烏山産コシヒカリ1年分
佳作	5点	商品券3,000円相当分

※入賞通知を受けた方は原版(ネガまたはデータ)をご提出ください。原版は返却しません。期限までに提出のない場合は入賞を取り消すこともありますのでご了承ください。

(5)応募規定 ①四つ切りサイズのカラープリント。
②入賞作品の著作権は主催者に属します。
③入賞は原則として一人一賞とします。
④被写体の肖像権については責任を負いかねます。
(人物が含まれている写真はその人物に承諾を得てご応募ください。)

(6)応募方法 応募票に必要事項(タイトル・住所・氏名・年齢または学年・電話番号・撮影年月日・撮影場所)を記入し、作品と一緒に郵送または直接下記事務局へ提出してください。

(7)申 込 先 〒321-0692 栃木県那須烏山市中央1-1-1
那須烏山市まちづくり研究会事務局
(那須烏山市商工観光課内 TEL:0287-83-1115)

(8)応募締切 平成21年2月10日(火)

(9)審査発表 2月中旬。直接本人宛て通知します。

◇備 考 2月下旬頃に表彰式および作品展示会を開催いたします。詳しくは、下野新聞・那須烏山タイムズおよび市ホームページにてご案内いたします。

《資料6》 第3回入賞作品



委員長賞『棚田の風』



市長賞『荒川紀行』



商工会長賞『冬の朝陽』



JA 組合長賞『朝もやの棚田』



佳作『秋の大銀杏』



佳作『秋の遠足』



佳作『雪残るイルミネーション』



佳作『躍動する少女たち』



佳作『郷土の明かり』

2. 山あげ祭への参加と支援、国見の棚田周辺景観づくり、カラコン企画、など

国の重要無形民俗文化財で、ユネスコの無形文化遺産への登録が進められている『山あげ祭』は、450年余の歴史を有する市民の誇りの伝統行事である。しかしながら、長引く地域産業の停滞・弱体化や少子高齢化・若者の流出など地方都市が抱える課題に直面する中で、これまでの開催手法の仕組みの見直しをはじめその維持に向けた取り組みが行われている。

『まち研』の大野邦雄コンソーシアムとちぎ大学連携サテライトオフィスコーディネータ・宇都宮大学客員教授は、『山あげ祭』に栃木県内大学等に留学している女子学生の参加を企画した。海外からわが国、そして栃木県で学び生活する女子留学生に、日本の伝統文化を肌で感じてもらうことをとおして、海外に向けた『山あげ祭』の発信効果を狙いとした取り組みである。この取り組みは本会が主催者となり、市の後援と元田町自治会の協力により、2006年7月22日に開催された。当日は、日本和装宇都宮学院の協力を得て、参加した女子学生に浴衣の着付けが行われ、大久保忠旦本会委員長および本取り組みに協賛して頂いた鈴木邦雄市国際交流協会長とともに、セレモニーおよび山車を曳くなど一連の企画が実施された。本取り組みには、宇都宮大学・宇都宮共和大学・作新学院大学・白鷗大学・セントメリー日本語学校・国際情報ビジネス専門学校の6大学等29名が参加した。資料7に、参加の様子を伝える写真を示す。

《資料7》 女子留学生の『山あげ祭』への参加



また、足利工業大学福島研究室は、祭の運営スタッフとして当該年度当番町の泉町若衆団の支援を行った。『まち研』発足を間近に控えた2006年6月下旬から視察調査として市に入っていた福島研究室の卒業研究生7人は、市商工観光課の依頼に応じて『山あげ祭』に支援参加することになった。地域経済の縮小・若年労働者層の流出に伴う地域文化の継承問題といった現今の地方都市の大きな課題を目の当たりにしながら、7月22日の笠揃から25日の還御までの4日間、運営の補助を務めた。資料8に、学生たちが祭に参加している様子を示す。

《資料8》 『山あげ祭』に支援参加した足利工業大学福島研究室の学生たち



市の中山間地に位置する小木須国見地区は、急峻な傾斜地を切り拓いて形成された“棚田”が広がりを見せる。2006年6月にこの地の視察調査を行った足利工業大学福島研究室は、その郷愁を誘う風景地にさらに付加価値を加えることを本会事務局に相談し、地元自治会および市農政課との協働により“花の植栽による景観づくり”を企画した。テーマは、“いつ訪れても花が迎えてくれる景観づくり”で、“5月の紫陽花”“晩夏のコスモス”“錦秋の稲穂を彩る曼珠沙華”の3種による景観づくりである。そのため、棚田を望む一区画の草刈りを行いコスモス(7月15日)・紫陽花(8月29日)を植栽するとともに、棚田の畔周辺に曼珠沙華(10月2日)が植栽された。これらの取り組みは、前節で述べたフォト・コンテストの被写体に利用されるなど市の景観形成とその美化に寄与するとともに、現在も本会の一事業として地元自治会が中心になりコスモス畑の維持管理等が行われている。資料9に、地元自治会・福島研究室・市商工観光課・市農政課による植栽作業の様子を示す。

《資料 9》 国見地区の景観づくりへの取り組み



地元商店街の活性化と若者の出会いを創出すること等を主たる目的とした所謂“街コン”が各地で開催されている。国際医療福祉大学中田ゼミと本会事務局は、本市の交流人口の拡大と地域振興を狙いとして、2012（平成24）年度『まち研』事業“カラコン”が企画・開催された。6月初旬から8月下旬にかけて打合せが行われ、9月8日に市を代表する近代化遺産『東京動力機械製造(株)地下工場跡』（どうくつ酒蔵）を会場として開催された。参加者は約100名を数えるとともに、市内の賑わいづくりに貢献する取り組みとなった。資料10に、カラコンの開催の様子を示す。

《資料 10》 カラコンを開催した国際医療福祉大学の学生たち

